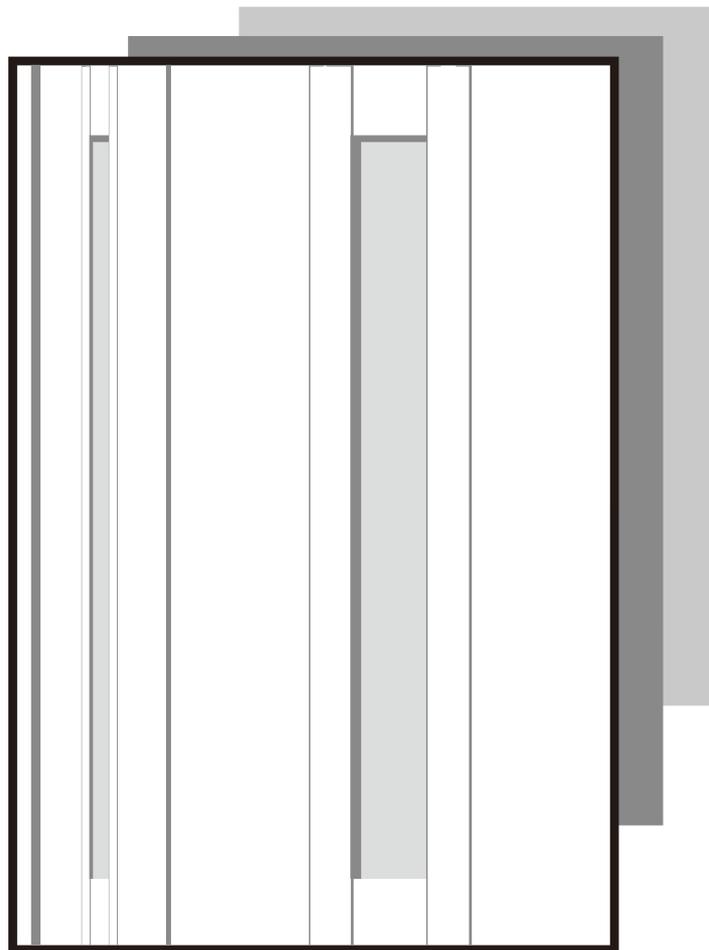


リフォームドア リシエント(高断熱)

取付け説明書



取付けにあたって

- ご使用前に、「取付け説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- この説明書に掲載の商品は、使用用途・場所などを限定するもの、専門施工を必要とするもの、定期点検を必要とするものがあります。
販売店または専門施工店にご確認ください。
- 商品には安全にお使いいただくための本体表示ラベルが張ってあるものがあります。ご使用の際はご確認の上、正しくお使いください。

目次

■組立て・取付けされる方へのお願い	1 ~ 3
■取付け工程モデル	4
■納まり参考図	5 ~ 11
■製品の組立て	12 ~ 15
■製品の取付け	16 ~ 55

組立て・取付けされる方へのお願い

■組立て・取付けされる方へのお願い

- 本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲ 注意 …組立て・取付けを誤った場合、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲ 注意

- 製品強度の不足でドア本体・枠の脱落のおそれがあります、下記事項をお守りください。
 - ・躯体に取付ける際は、ねじかかり寸法は必ず20mm以上にしてください。
 - ・躯体に取付ける際は、枠取付けねじのねじ込みトルクは、ねじかかり寸法20mmの時、 $1.2\text{N}\cdot\text{m}$ ($12\text{kgf}\cdot\text{cm}$)以上にしてください。
 - ・既設枠に取付ける際は、新しい枠取付け面の既設枠アルミ厚さが1.4mm以上(スチール枠の場合、1.2mm以上)であることを確認してください。
- 丁番取付けねじ、および丁番裏板取付けねじは増締めをして締付けてください。締付けがゆるいとドア本体の脱落のおそれがあります。(締付けトルクは、 $2.5\pm 0.5\text{N}\cdot\text{m}$ ($25\pm 5\text{kgf}\cdot\text{cm}$)以上)
- ドア本体に錠セットを取付けて、枠に吊込んだ後はラッチボルトを掛けて固定してください。錠セットを取付ける前に枠に吊込むとドアが勝手に開き、ケガをするおそれがあります。
- 建付け調整のとき、丁番取付けねじを全部外さないでください。ドア本体が脱落し、ケガをするおそれがあります。
- 親子・両開き納まりで下枠とポーチ面の立上がり大きい場合は、下枠のツボ部分の強度確保のため、必ず下枠補強アングル[下枠用Lアングル](別途有償品)を取付けてください。下枠のツボ部分が破損し、思わぬケガをするおそれがあります。
- 下枠段差緩和材の取付けは注意事項をお守りください。両面テープの接着力が低下し、下枠段差緩和材が外れ、思わぬケガをするおそれがあります。
- インパクトドライバーなどの高トルクでねじを締めつける場合には、ねじが効かなくならないようにご注意ください。ドア本体・枠の脱落のおそれがあります。
- 半外枠補強プレートを既設枠に固定する際に下穴をあける場合は、 $\phi 2.5$ 以下にしてください。大きな下穴をあけてしまうとねじが効かなくなり、ドア本体・枠の脱落のおそれがあります。
- 外壁工事を伴わない取付けの場合は、指定の個所にシーリング材を充てんしてください。漏水の原因となります。

■組立て上へのお願い

- 必ず指定のねじで組立てしてください。
- 枠の組立てねじは $2.5\pm 0.5\text{N}\cdot\text{m}$ ($25\pm 5\text{kgf}\cdot\text{cm}$)の締め付けトルクで止めた後、ゆるみ・ガタツキのないことを確認してください。

■取付け上のお願い 躯体固定

- 必ず指定の取付けねじで固定してください。
- 現場取付けに入る前に製品基本寸法が現場と合っていることを確認してください。
- 内外の額縁は現場の納まりに合わせて切詰めてください。
- 親子納まりの場合は、下枠のツボ部分の強度確保のため、受け金具の両脇にかい物を入れてください。
- 親子納まりで下枠とポーチ面の立上がり大きい場合は、下枠のツボ部分の強度確保のため、必ず下枠補強アングル [下枠用Lアングル] (別途有償品) を取付けてください。

【ねじかかり寸法の確認】

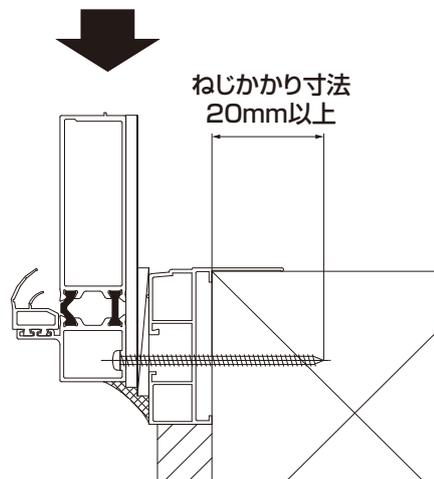
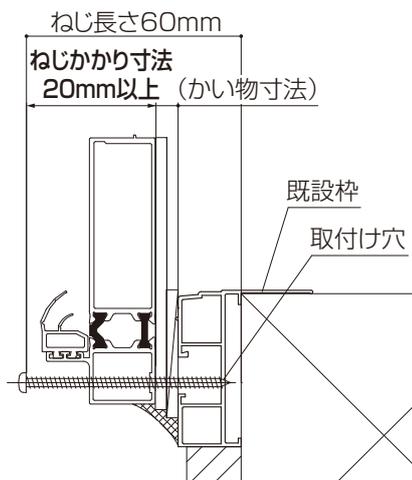
躯体にねじ止めする前に、既設枠の取付け穴にねじを入れ、取付け穴からねじ頭までの長さが20mm以上であることを確認してください。

※ねじ長さ 60mm

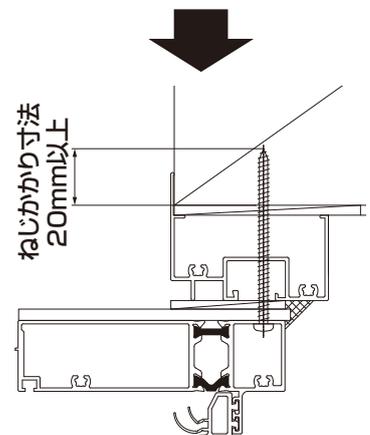
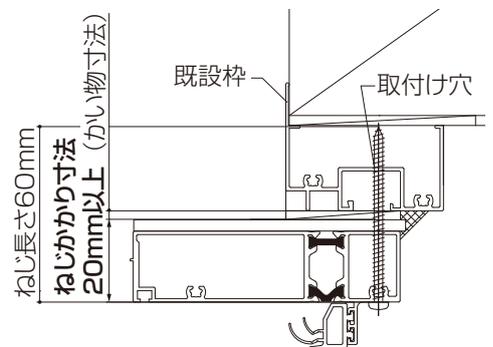
▲ 注意

- 製品の強度確保のため、ねじかかり寸法は必ず20mm以上にしてください。ドア本体・枠の脱落のおそれがあります。

(縦枠の場合)



(上枠の場合)



【取付ける柱のねじ込みトルクの確認】

製品を取付ける前に取付ける柱に腐りがなく、枠の取付けねじのねじ込みトルクが1.2N・m (12kgf・cm) 以上であることを確認してください。

▲ 注意

- 躯体に取付ける際は、製品の強度確保のため、取付けねじのねじ込みトルクは、ねじかかり寸法20mmの時、1.2N・m (12kgf・cm) 以上にしてください。ドア本体・枠の脱落のおそれがあります。

■取付け上のお願い 既設枠固定

- 必ず指定の取付けねじで固定してください。
- 現場取付けに入る前に製品基本寸法が現場と合っていることを確認してください。
- 内外の額縁は現場の納まりに合わせて切詰めてください。
- 親子納まりの場合は、下枠のツボ部分の強度確保のため、受け金具の両脇にかい物を入れてください。
- 親子納まりで下枠とポーチ面の立上がり大きい場合は、下枠のツボ部分の強度確保のため、必ず下枠補強アングル [下枠用Lアングル] (別途有償品) を取付けてください。

〔対象商品〕

- ・旧システム製半外付枠戸建玄関ドアシリーズ
(ロンカラー等の汎用ドアは対象外)
- ・新しい枠取付面の既設枠アルミ厚さが1.4mm以上(スチール枠の場合、1.2mm以上)の商品

〔既設枠アルミ厚さの確認〕

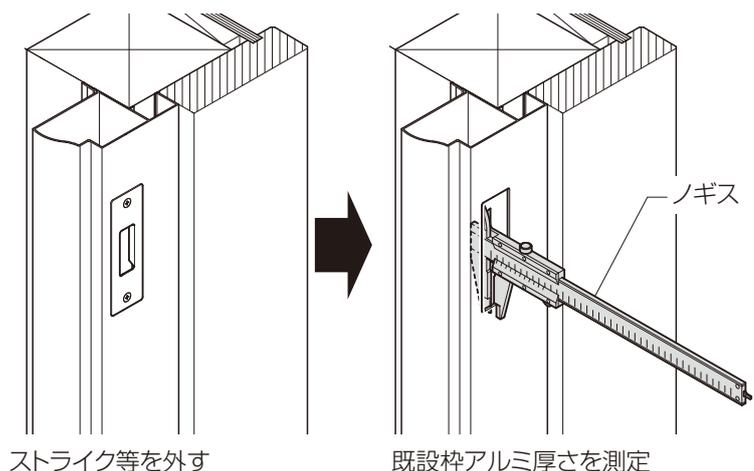
既設枠にねじ止めする前に既設枠から部品を外し、ノギスで新しい枠取付面の既設枠アルミ厚さが1.4mm以上(スチール枠の場合、1.2mm以上)であることを確認してください。厚さが1.4mm以上であれば取付可能です。

※厚さが1.4mm未満の場合、既設枠に固定することができません。躯体に固定してください。

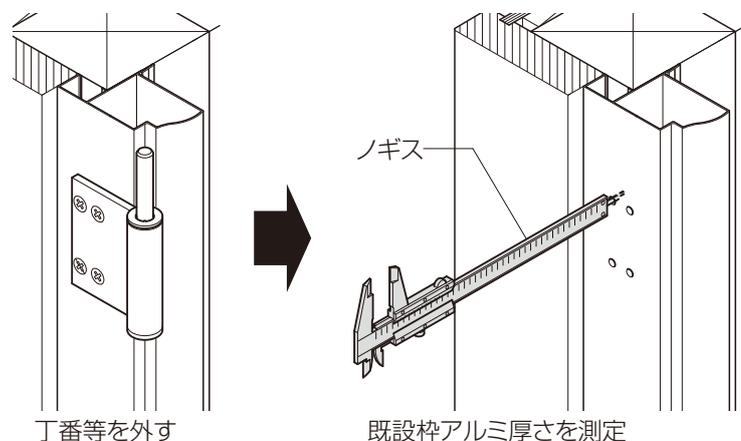
▲ 注 意

- 製品の強度確保のため、新しい枠取付面の既設枠アルミ厚さが1.4mm以上(スチール枠の場合、1.2mm以上)であることを確認してください。ドア本体・枠の脱落のおそれがあります。

(戸先側縦枠の場合)



(吊元側縦枠の場合)



取付け工程モデル

取付け工程

お施主さまとの打合わせ

取付け前の作業

製品の組立て

既設ドアの取外し

新しい枠・ドアの取付け

枠外周部のシーリング処理

額縁の取付け

額縁外周部のシーリング処理

ガラス入れ・部品の取付け

お引渡し

概要

- 現場を確認し、既設玄関への取付可否を調査します。
- 使用する製品のタイプを決定・見積りし、工事希望日を確認します。
- 製品を発注し、納入日を確認後工事日を決定します。

- 既設枠開口に合わせ、枠を切詰める必要がある場合は、製品を切詰めます。
- ガラス・ビード・別途有償品を手配します。

- 工事日までに製品を組立てます。

- 製品基本寸法が現場に合うことを確認します。
- 工具を準備し、外枠だけ残して順に取外します。

- 開口部の水平・垂直を正しく出し、新しい枠とドアを取付けます。
- 建付け調整をします。

- 雨仕舞いの処理のため、シーリングをします。

- 納まりに合わせて、額縁を切詰めます。
- 納まりに合う調整溝に、額縁を取付けます。
- 溝フタを取付けます。

- 雨仕舞いの処理のため、シーリングをします。

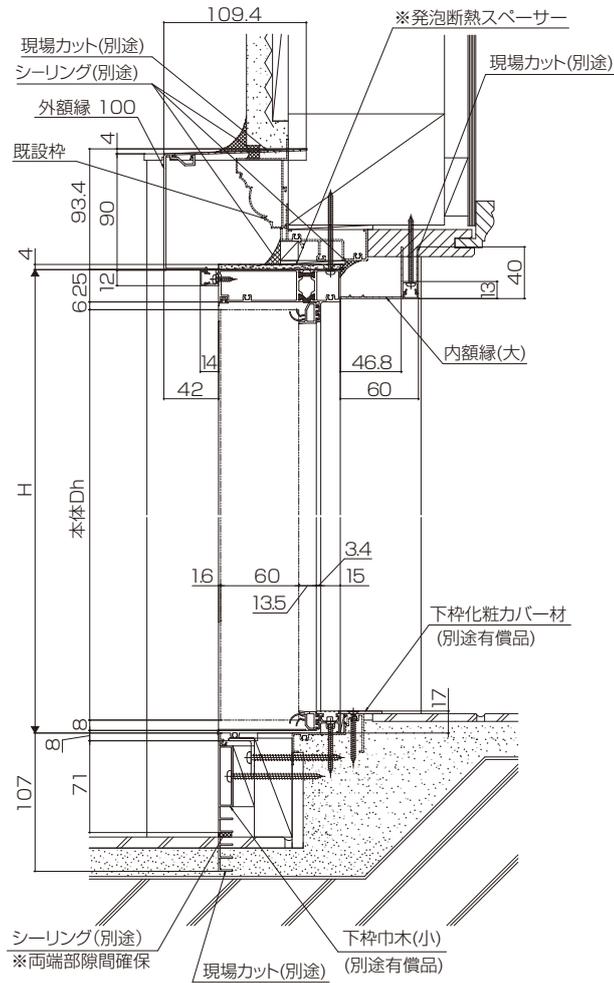
- ガラスを入れ、ドアクローザなどを取付けます。

- お施主さまに製品を引渡します。

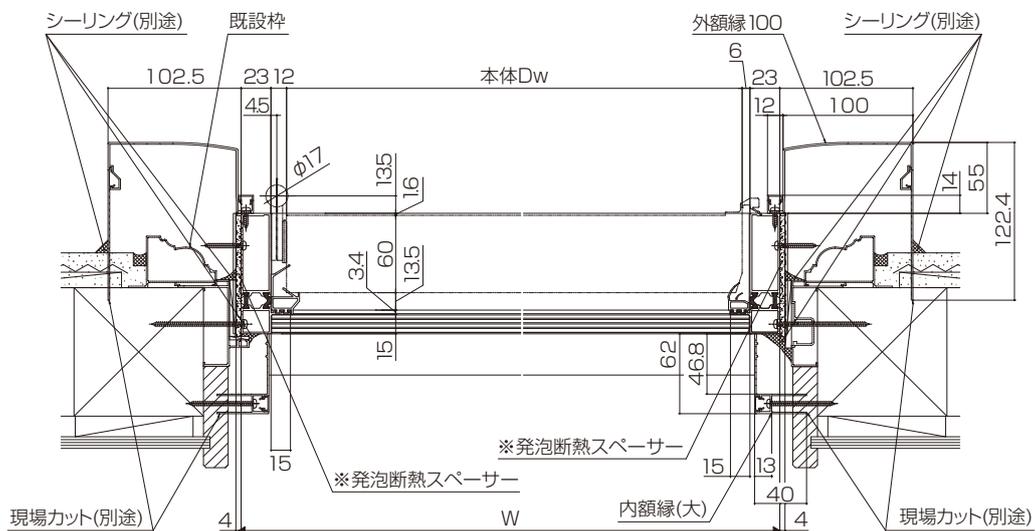
■アルミ枠納まり

〔ランマなし〕

●本体部（縦断面図）



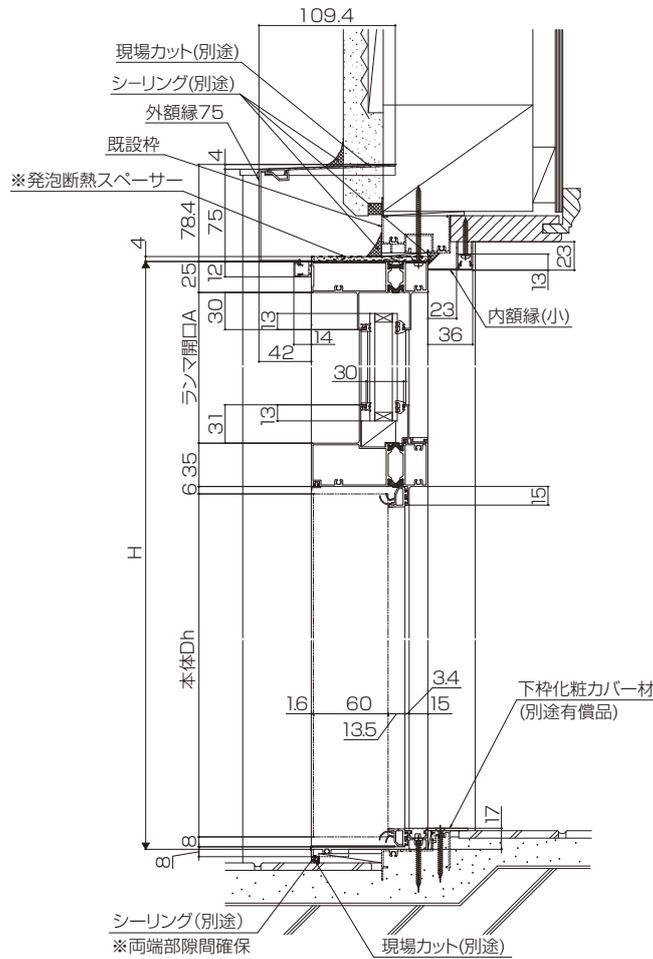
●片開き（横断面図）



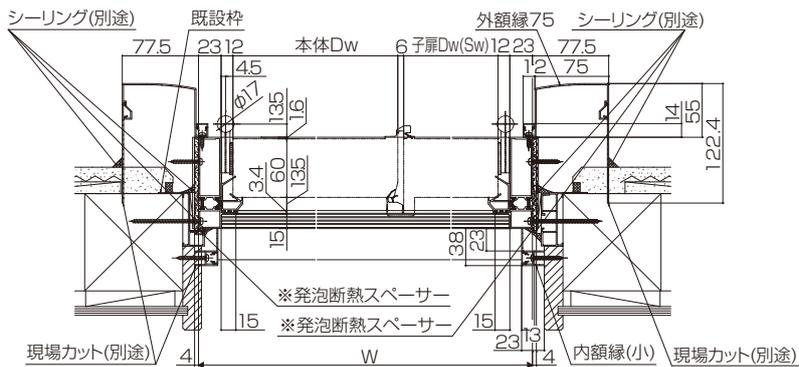
■アルミ枠納まり

〔ランマ付き〕

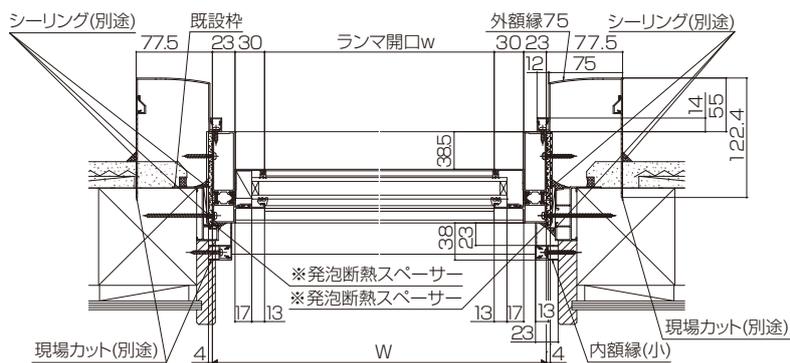
●本体部（縦断面図）



●親子
(横断面図)

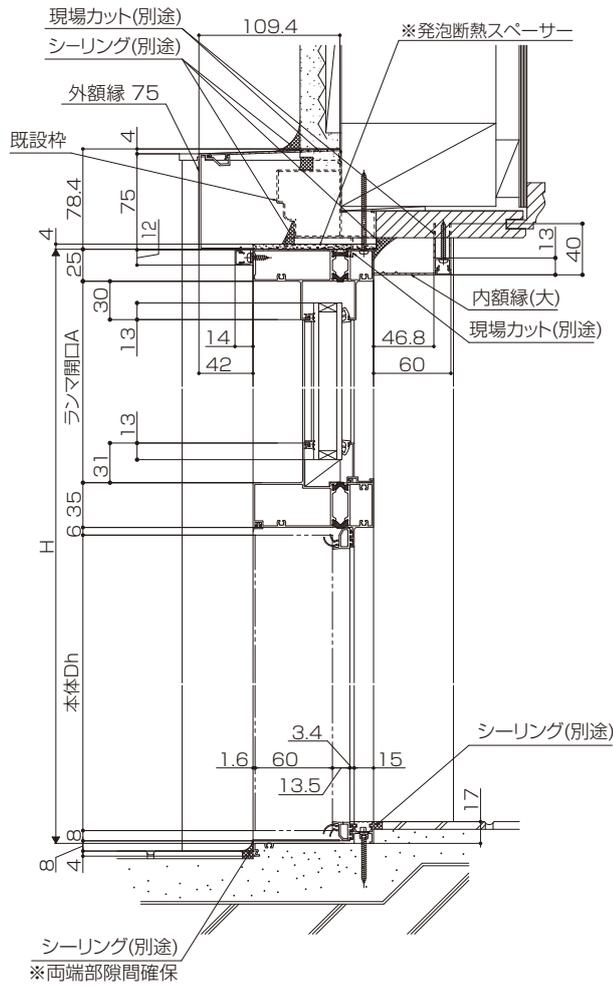


●ランマ部
(横断面図)

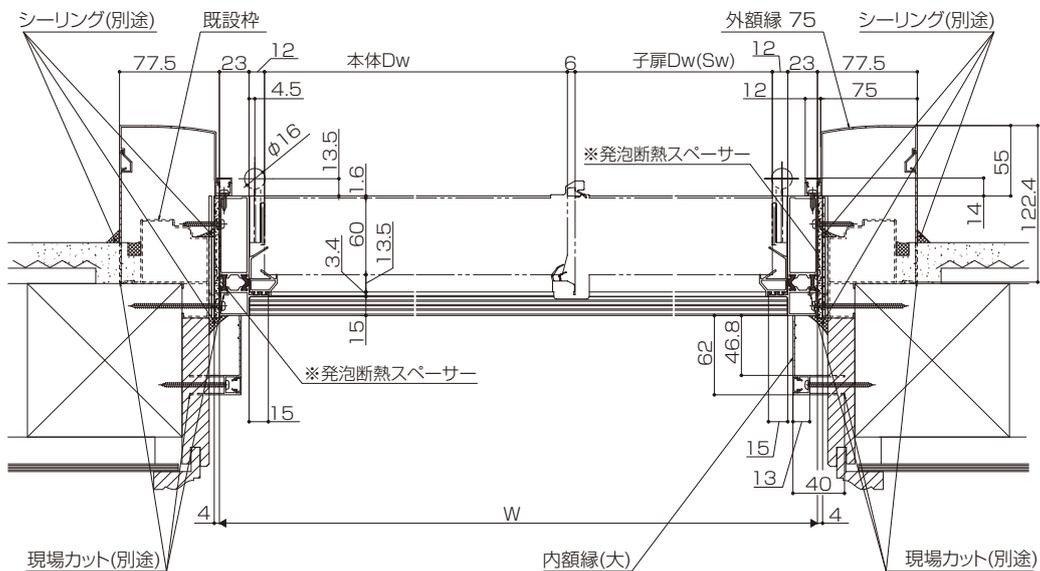


納まり参考図【躯体固定】(既設枠:半外付枠)

●縦断面図

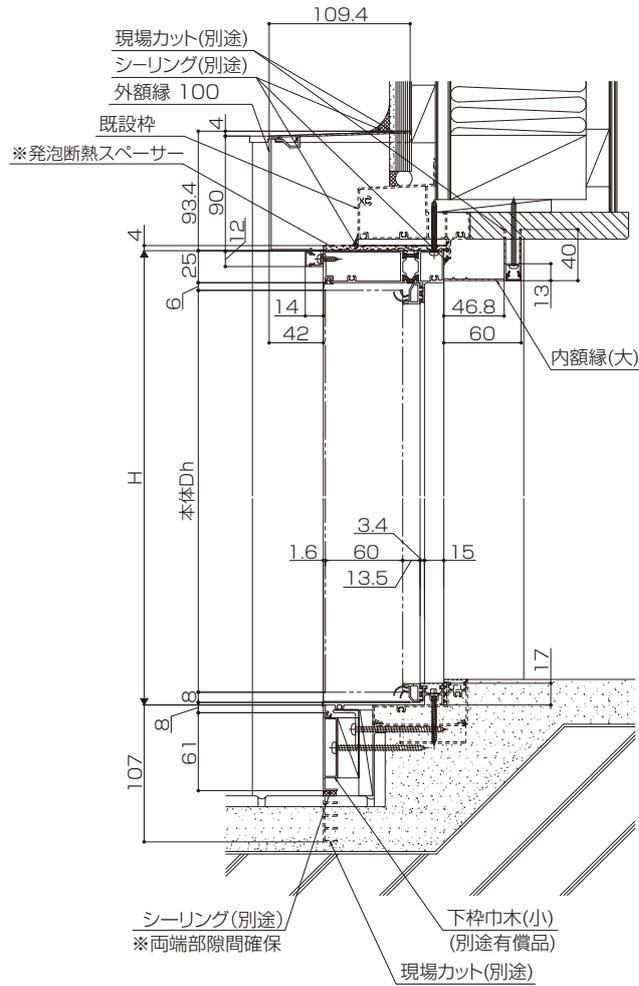


●横断面図

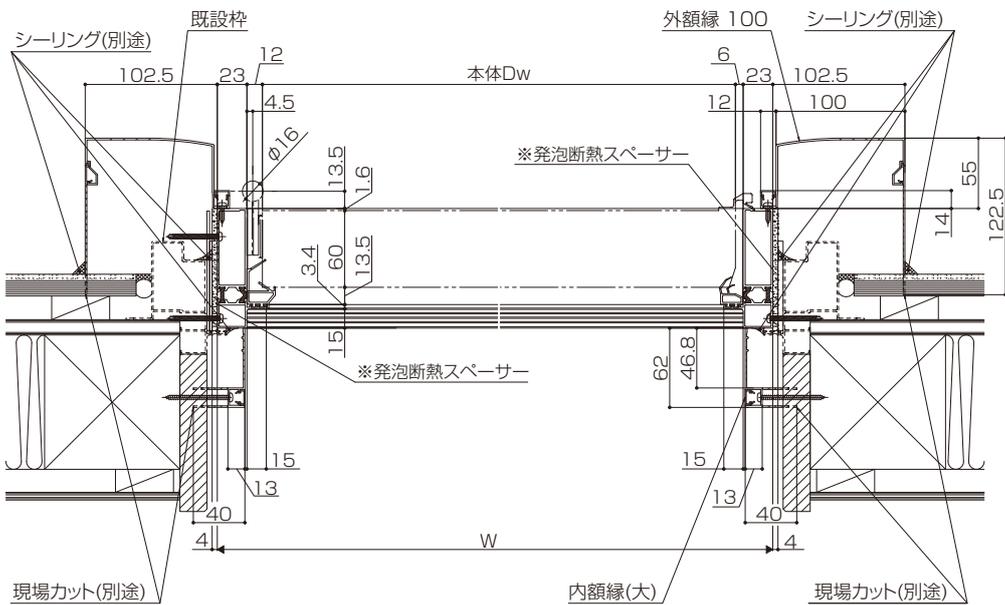


納まり参考図【既設枠固定】(既設枠:半外付枠(非断熱枠))

●縦断面図

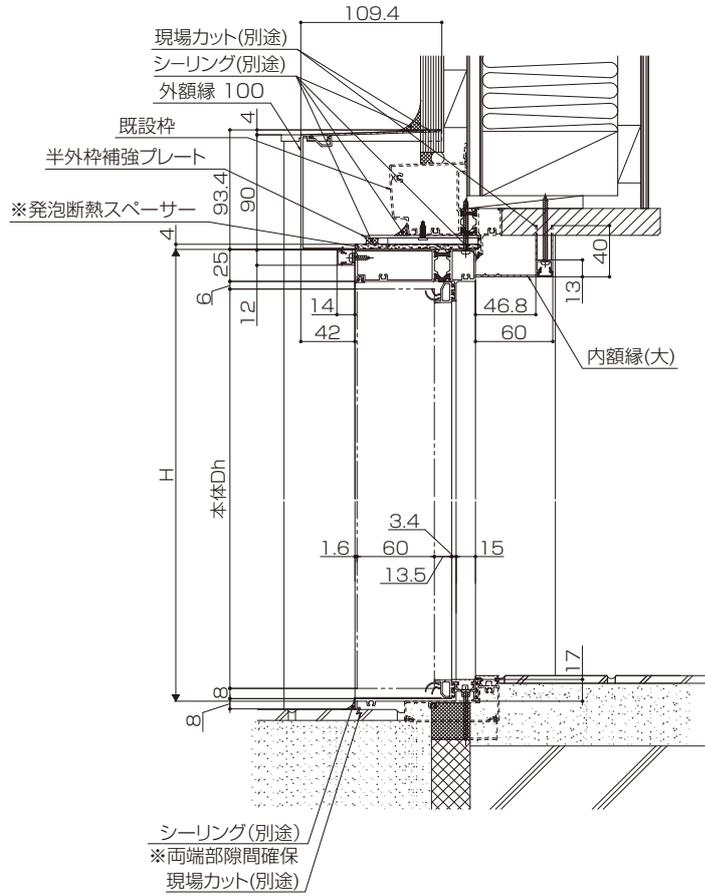


●横断面図

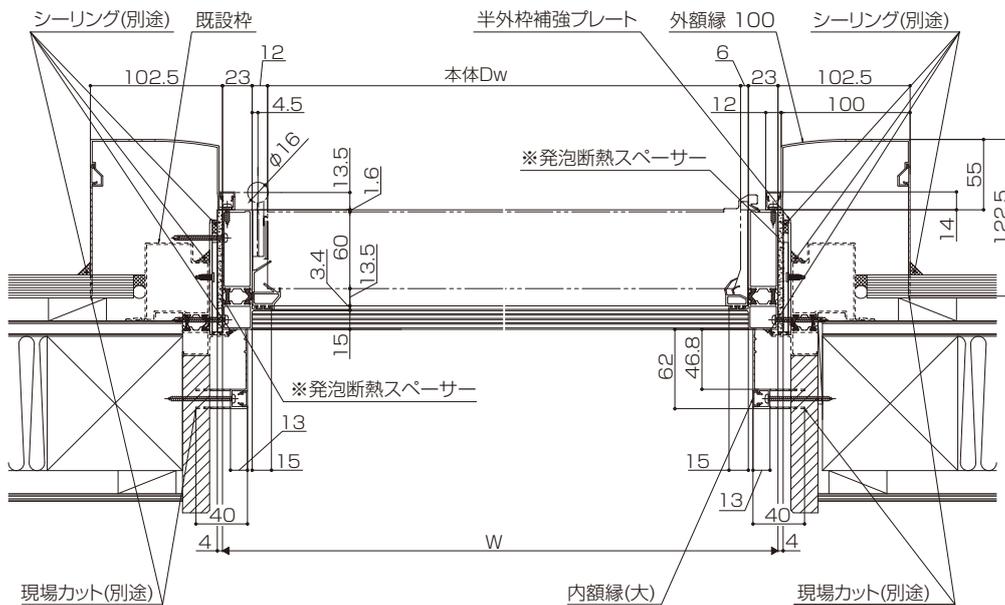


納まり参考図【既設枠固定】(既設枠:半外付枠(断熱枠))

●縦断面図



●横断面図



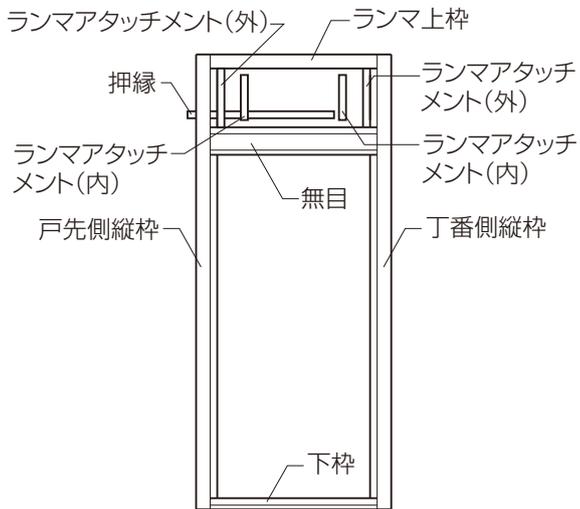
製品の組立て

■部材構成図

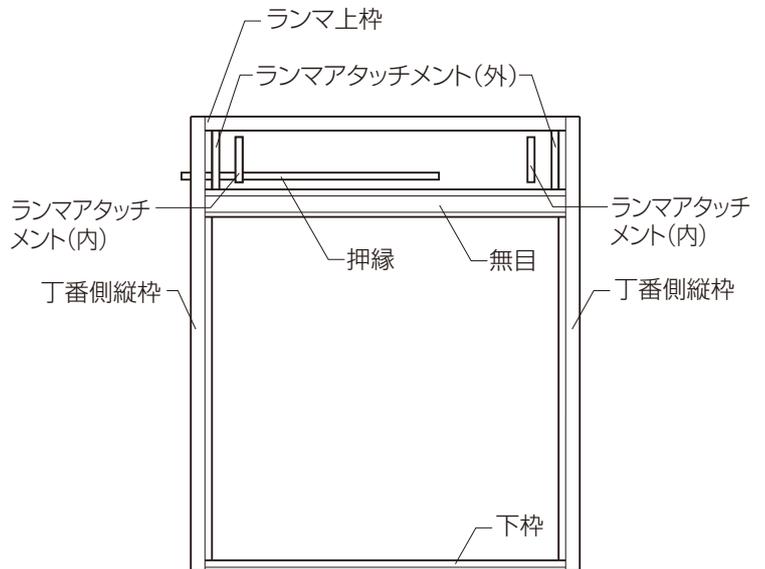
※図は外観右丁番の場合です。左丁番の場合、左右対称となります。

●ランマなしの場合、無目、ランマアタッチメント、押縁はありません。

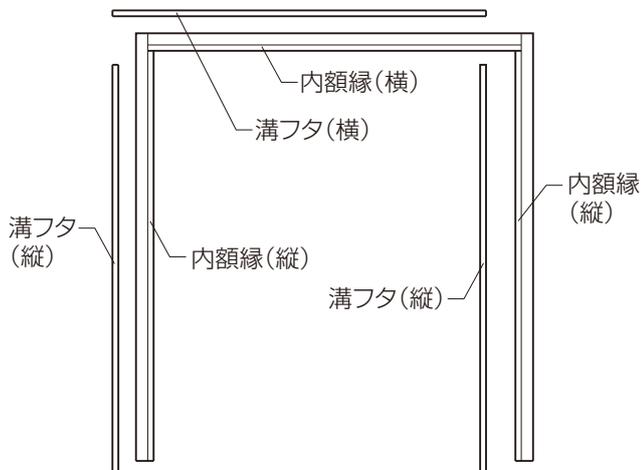
■片開き



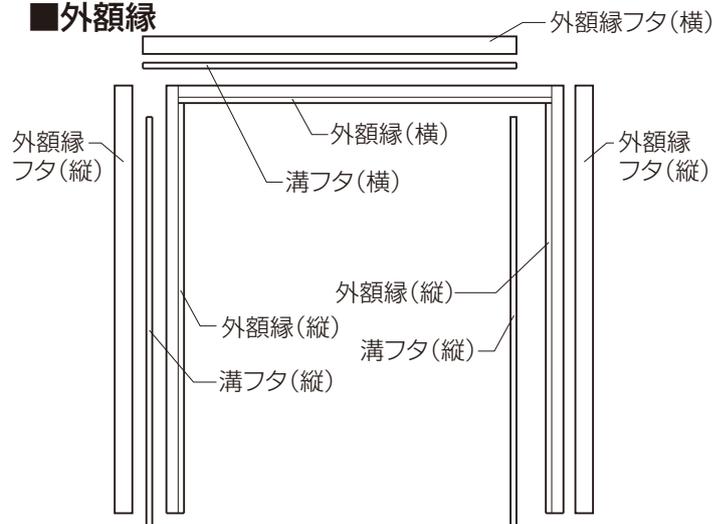
■親子・両開き



■内額縁

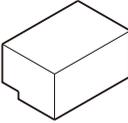
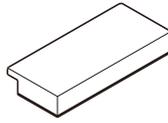


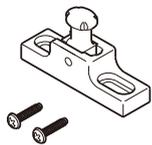
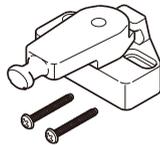
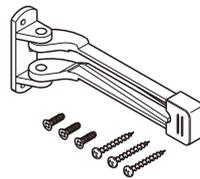
■外額縁



■組立てされる方へのお願い

■部品・ねじ一覧表

①	㊦	㊨
 <p>なべタッピンねじ φ4×55</p>	<p>※枠取付け後のガラス取付け時に使用 (P55)</p>  <p>ガラスライナー (ランマ用)</p>	 <p>無目端末ピース</p>

別途手配品		
㊩	㊧	㊫
<p>※枠に取付け</p>  <p>ドアガード受け(枠用) (バインド小ねじM4×16)</p>	<p>※子扉に取付け</p>  <p>ドアガード受け(子扉用) (バインド小ねじM4×25)</p>	<p>※本体に取付け</p>  <p>ドアガードアーム (①皿小ねじ M4 × 16) (②皿タッピンねじ 1種φ4 × 25)</p>

※電気錠タイプは①を使用、
手動タイプは②を使用

- 必ず指定のねじで固定してください。
- 枠の組立てねじは、 $2.5 \pm 0.5 \text{ N} \cdot \text{m}$ { $25 \pm 5 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$ } の締付けトルクで止めた後、ゆるみ・ガタツキのないことを確認してください。
- ポーチと下枠の段差が大きい場合は、下枠補強アングル [下枠用 L アングル] (別途有償品) を枠組立て時に取付けてください。(P51)

■組立て順序

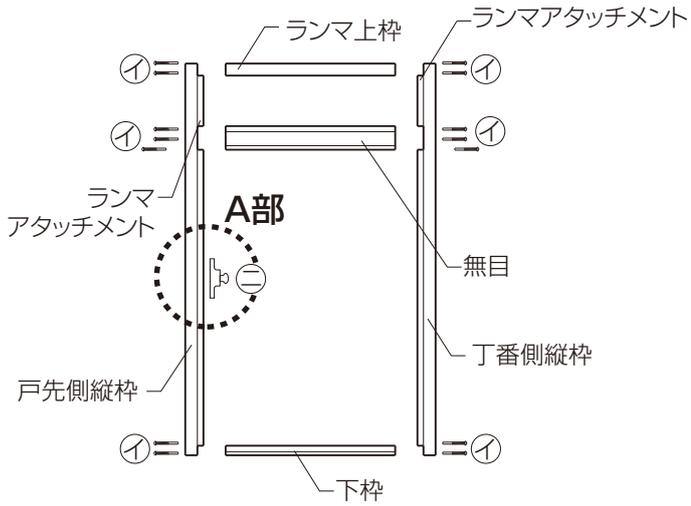
1 枠の組立て

●図に従って枠を組立てます。

※図中①は、ねじの種類を表します。

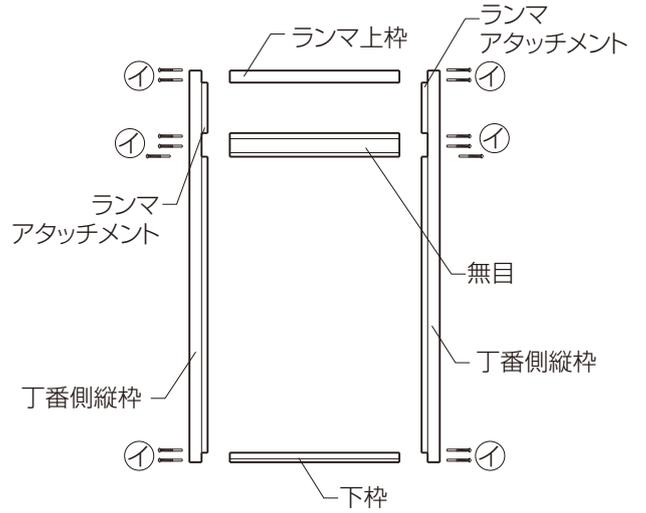
【片開き】

●ランマなしの場合、無目、ランマアタッチメント、押縁はありません。

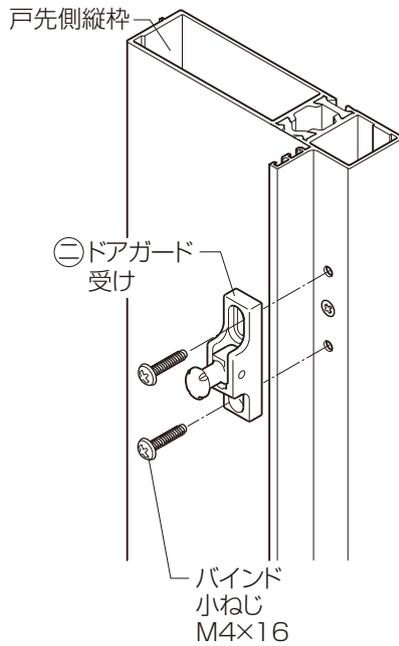


【親子・両開き】

●ランマなしの場合、無目、ランマアタッチメント、押縁はありません。



■A部詳細図



2 丁番の取付け・ドア本体の吊込み

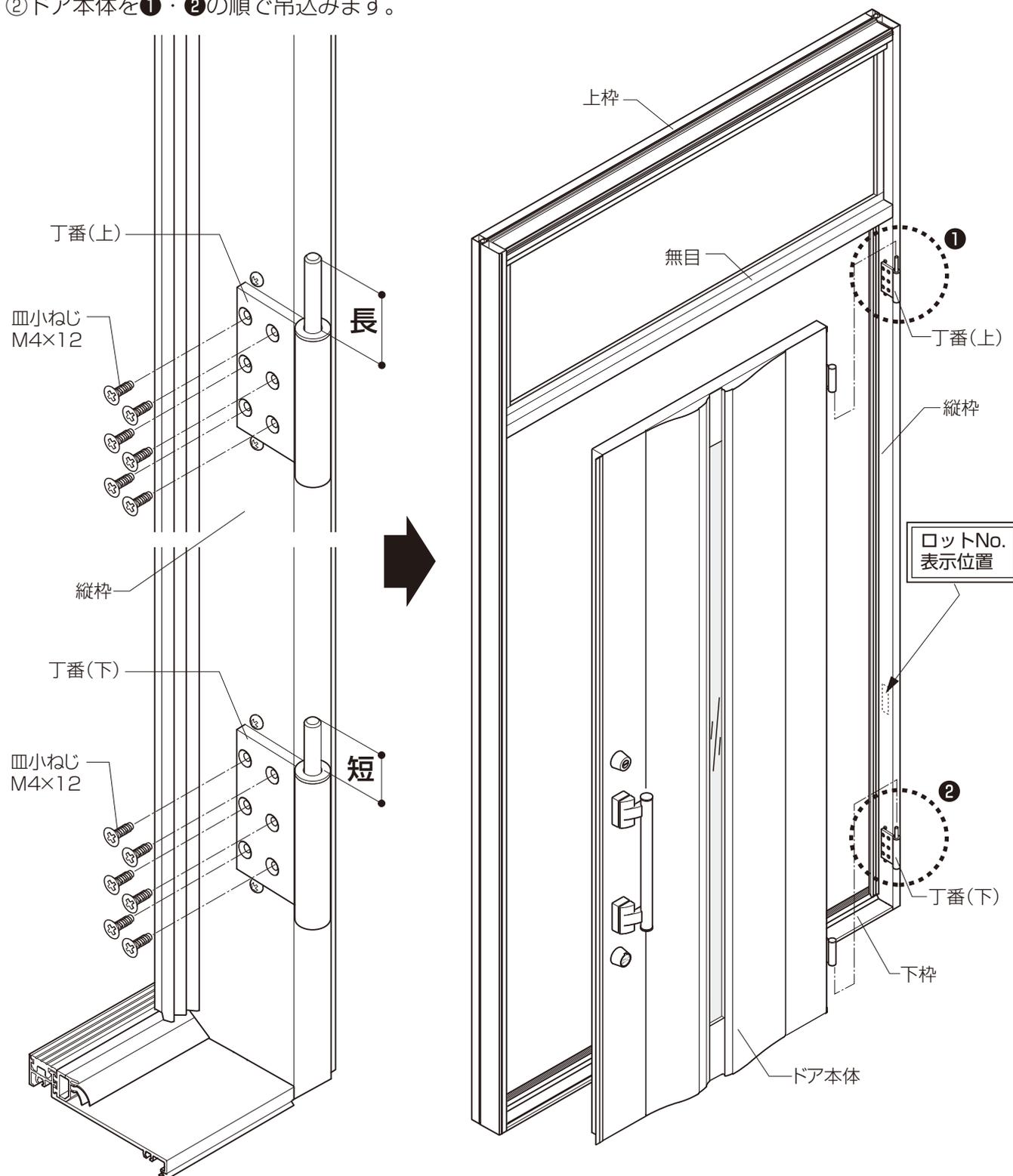
▲ 注 意

- 丁番取付けねじ、および丁番裏板取付けねじは増締めをして締付けてください。
(締付けトルクは、 $2.5 \pm 0.5\text{N} \cdot \text{m}$ { $25 \pm 5\text{kgf} \cdot \text{cm}$ })
ドア本体の脱落のおそれがあります。

① 丁番には上・下の区別があります。軸の長い丁番は上、軸の短い丁番は下になるように取付けます。
(取付けねじは丁番セットに同梱されています。)

※ 本体側は、皿小ねじ M4 × 20 (長いほうのねじ) で取付けてください。

② ドア本体を①・②の順で吊込みます。



製品の取付け

▲ 注 意

- 製品強度の不足でドア本体・枠の脱落のおそれがありますので、下記事項をお守りください。
 - ・躯体に取付ける際は、ねじかかり寸法は必ず 20mm 以上にしてください。
 - ・躯体に取付ける際の枠取付けねじのねじ込みトルクは、ねじかかり寸法 20mm の時 1.2N・m (12kgf・cm) 以上にしてください。
 - ・既設枠に取付ける際は、製品の強度確保のため、新しい枠取付け面の既設枠アルミ厚さが 1.4mm 以上 (スチール枠の場合 1.2mm 以上) であることを確認してください。
- ドア本体に錠セットを取付けて、枠に吊込んだ後はラッチボルトを掛けて固定してください。

錠セットを取付ける前に枠に吊込むとドアが勝手に開き、ケガをするおそれがあります。
- 建付け調整のとき、丁番取付けねじを全部外さないでください。ドア本体が脱落し、ケガをするおそれがあります。
- 半外枠補強プレートを既設枠に固定する際に下穴をあける場合は、 ϕ 2.5 以下にしてください。大きな下穴をあけてしまうとねじが効かなくなり、ドア本体・枠の脱落のおそれがあります。
- 外壁工事を伴わない取付けの場合は、指定の個所にシーリング材を充てんしてください。漏水の原因となります。

- 現場取付けに入る前に、製品基本寸法が現場と合っていることを確認してください。
- 必ず指定の取付けねじで取付けてください。
- 内外の額縁は、現場の納まりに合わせて切詰めてください。

■取付けねじ一覧表

※取付けねじ本数は、取付け穴より多めに入っています。

〔同梱品〕

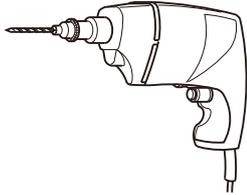
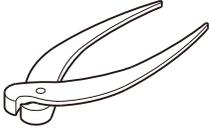
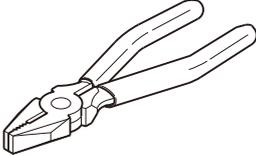
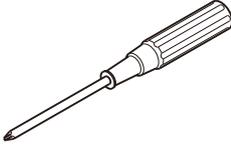
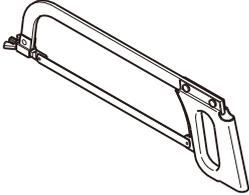
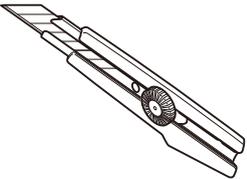
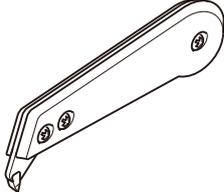
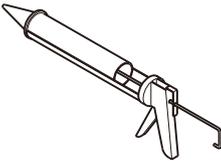
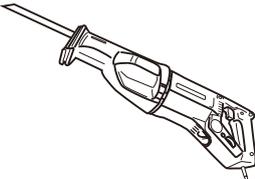
①	②	③	④
上枠・縦枠用	下枠取付け用	穴ふさぎ用	下枠取付け用
			
なベメタルウッドポイントねじ ϕ 4.8 × 60	皿ドリルねじ ϕ 4 × 40	プッシュボタン	※コンクリート用 皿セルフタッピング アンカーねじ ϕ 4 × 32

〔別途有償品〕

⑤ 既設アルミ枠取付け用	⑥ 既設スチール枠取付け用	⑦ 半外枠補強プレート取付	⑧ 既設枠取付け用
			
なベドリルねじ (細目) ϕ 4 × 40	なベドリルねじ (粗目) ϕ 4 × 40	バーリングドリルねじ ϕ 4 × 15	なベドリルねじ (粗目) ϕ 4 × 40

※⑦と⑧は半外枠補強プレートに同梱

■使用工具一覧表

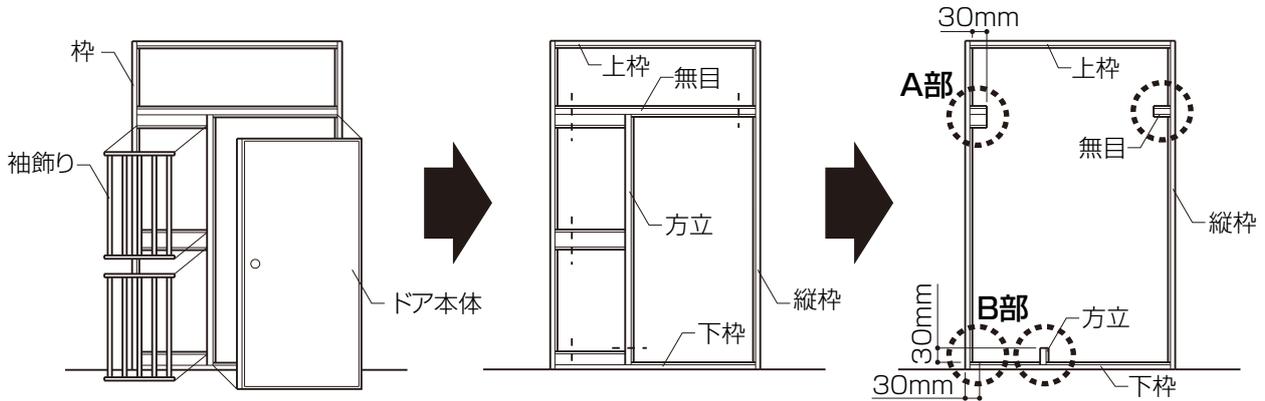
電動ドリル・電動ドライバー	くい切り	ペンチ	プラスドライバー	鉄ノコ
				
カッター	プラスチックカッター	コーキングガン	セーバーソー	※その他工具… グラインダー、 プライマー 丸のこなど。
				

■既設ドアの取外し

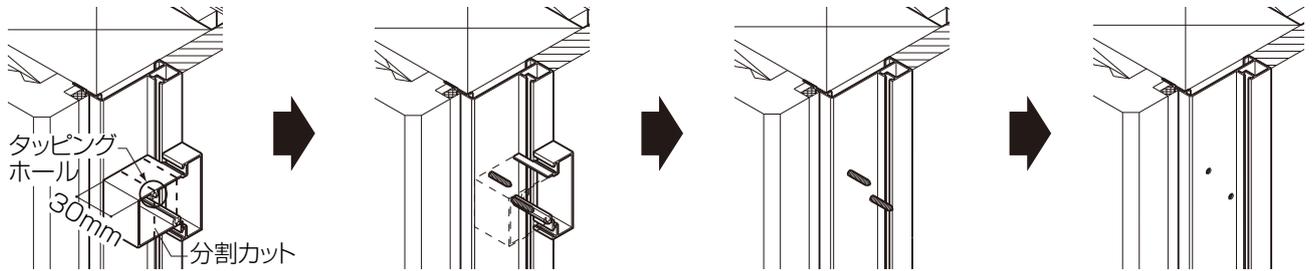
- ①既設のドア本体・袖飾り・子扉、およびガラスを取外します。
 - ②無目・方立などの部材を切断して取り除き、外枠（上枠・縦枠・下枠）のみ躯体に残します。
- ※下枠も取除く場合はモルタル処理をしてください。
 ※既設枠の丁番やストライク等の加工穴は、シーリングでふさぐことを推奨します。

〔既設枠がアルミ型材の場合〕

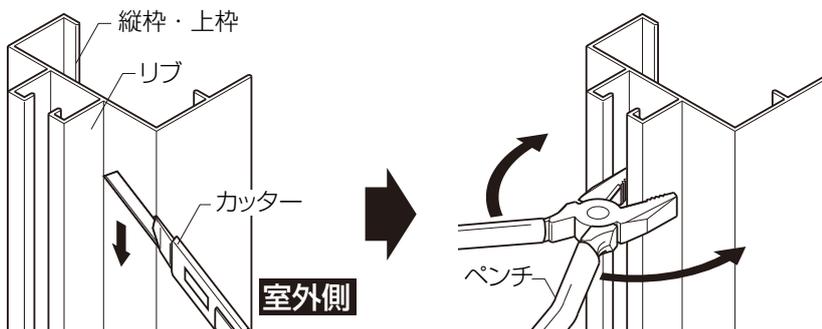
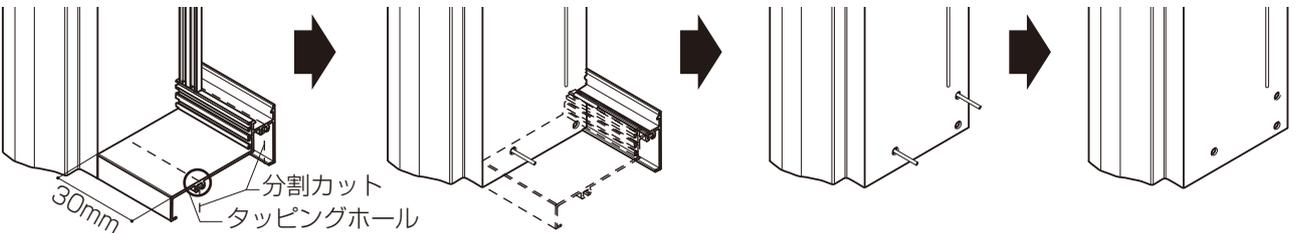
- ①無目・方立・下枠などは、縦枠・下枠などとの連結部から約 30 mm 残して切取ります。
- ②切り残した部材は、タッピングホール付近を分割して取りやすい状態にして外します。
- ③外枠に残ったねじを、くい切りなどで切断します。
- ④取付けに支障のあるリップが縦枠・上枠にある場合は（下図）、室外側のリップの付け根にカッターなどにて強く押当ててキズをつけ、ペンチで折取ります。



■A部詳細図



■B部詳細図

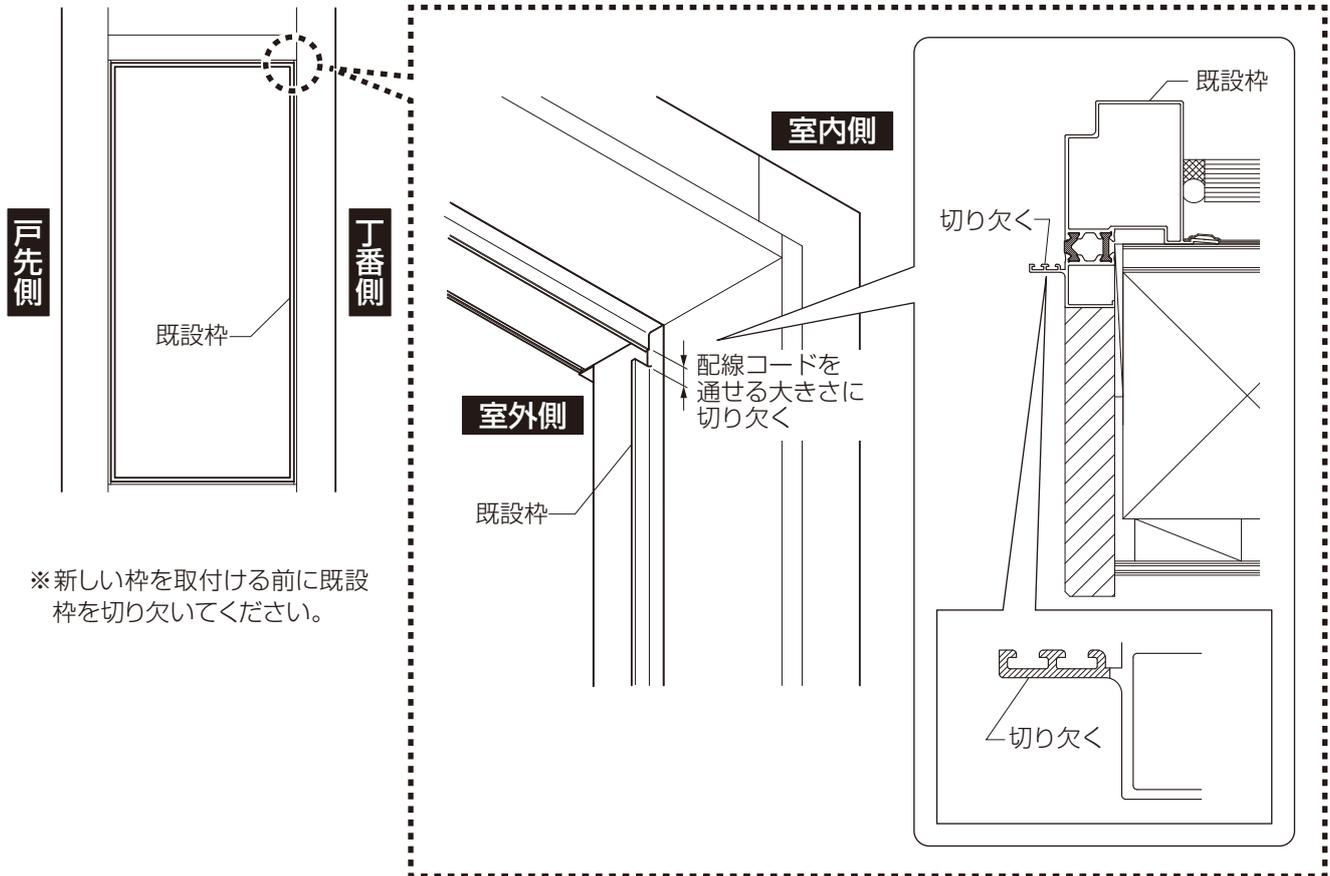


■既設枠の切り欠き加工

< FamiLock AC100V 式 > の場合

- 配線コードを枠外へ引き出すために、既設枠と内額枠に切り欠き加工が必要になります。
- 内額縁の切り欠き加工についてはP39,P40を参照ください。

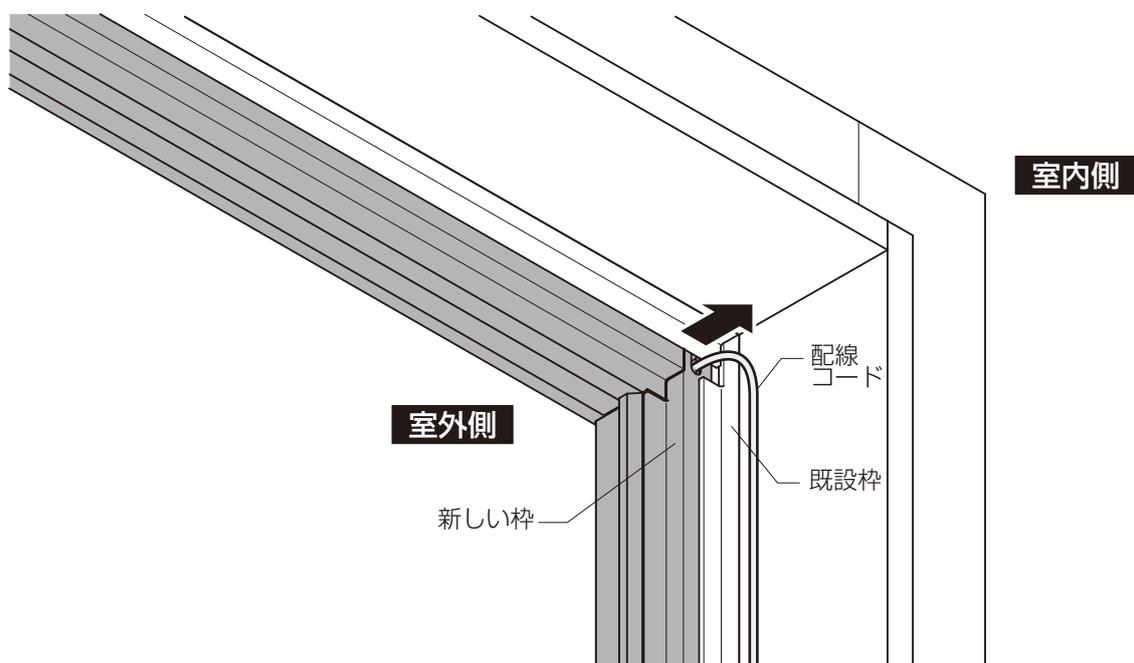
新しい枠 丁番側上部の既設枠戸当たりフィンに配線コードが通せる大きさに切り欠いてください。



■新しい枠の取付け

< FamiLock AC100V 式 > の場合

既設枠の切り欠いた部分から配線コードを引きだし、新しい枠を取付けてください。

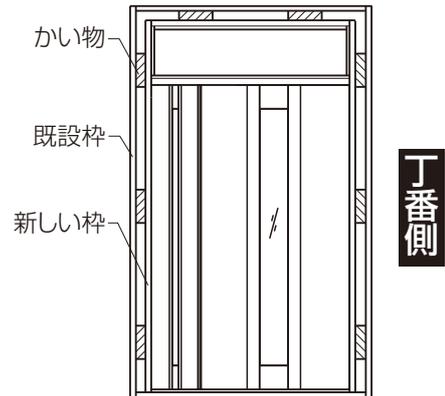


※新しい枠の取付け方法の詳細は、次ページ以降を参照ください。

■新しい枠の取付け【躯体固定】（既設枠：内付枠）

①かい物を三方に入れて、新しい枠の水平・垂直を正しく出します。

※既設枠と新しい枠(上枠・縦枠)を接触させないでください。接触すると断熱性能が確保できなくなる場合があります。



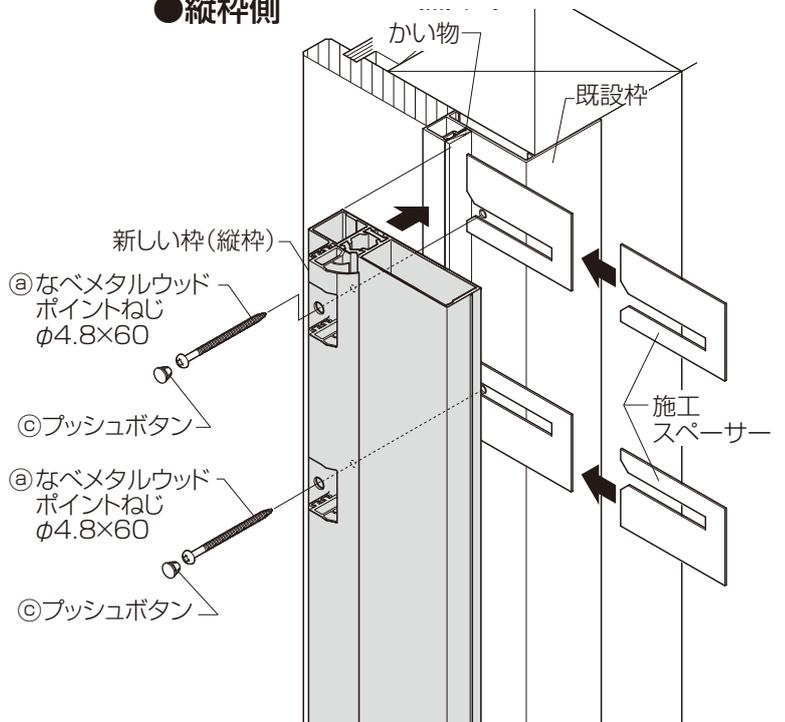
▲注意

●躯体に取付ける際は、製品の強度確保のため、ねじかけり寸法は必ず20mm以上にしてください。ドア本体・枠の脱落のおそれがあります。

②丁番側縦枠の室内側躯体取付けねじから順に㊸なべメタルウッドポイントねじφ4.8×60で取付けます。

※メタルウッドポイントねじは既設枠への下穴が不要なねじです。下穴を開けずに取付けできます。ただし、上手く取付けできない場合には、ドリルにてφ3の下穴を開けてください。

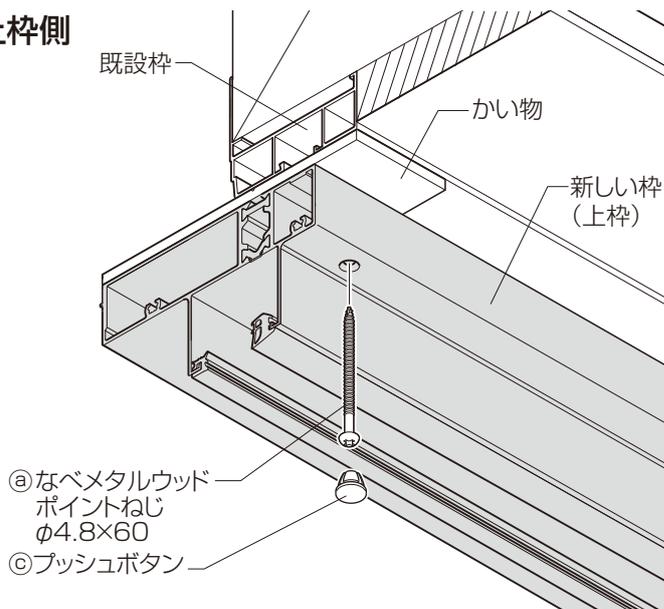
●縦枠側



■新しい枠の取付け【躯体固定】（既設枠：内付枠）

③プッシュボタンをはめ込みます。

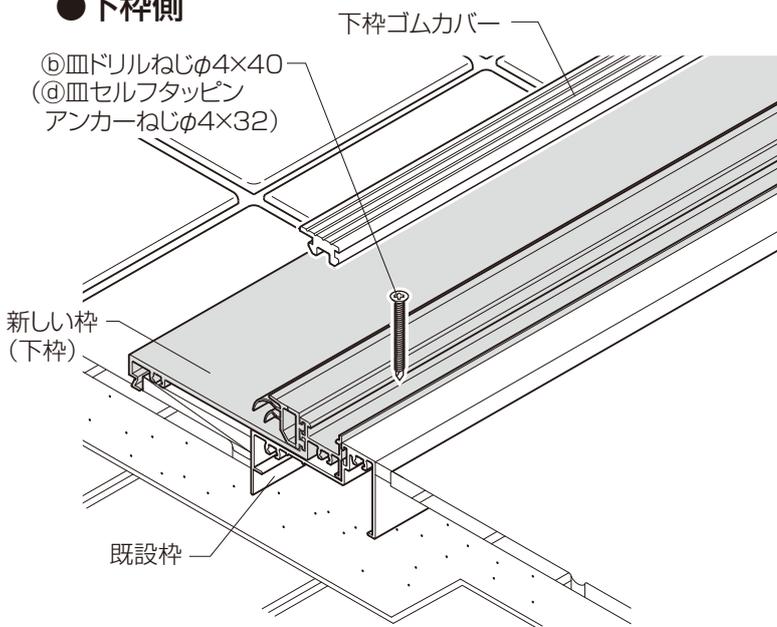
●上枠側



④本体・子扉部分の下枠ゴムカバーを取外し、下枠の取付け穴から既設下枠にφ3.5の下穴をあけて、皿ドリルねじφ4×40で既設枠に固定します。

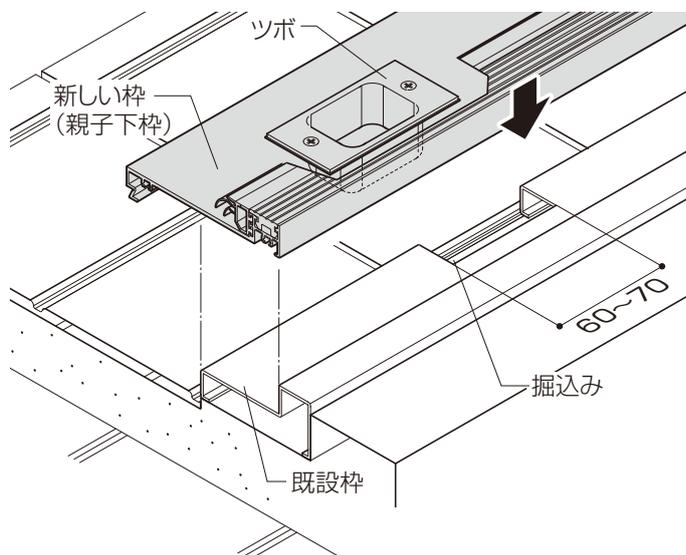
既設下枠が、コンクリートの場合は、皿セルフタッピングアンカーねじφ4×32で固定します。

●下枠側



【親子の場合】

●ツボの突起部が既設枠に当たる場合は、あらかじめ既設枠に掘込みを入れておきます。

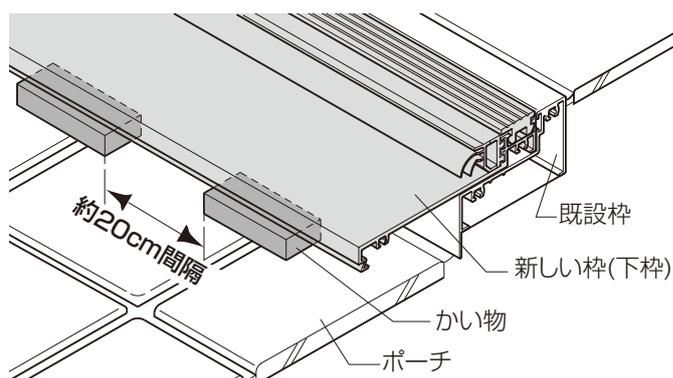


■新しい枠の取付け【躯体固定】（既設枠：内付枠）

⑤下枠のたわみ防止のため、下枠とポーチとのすき間にかい物を入れます。

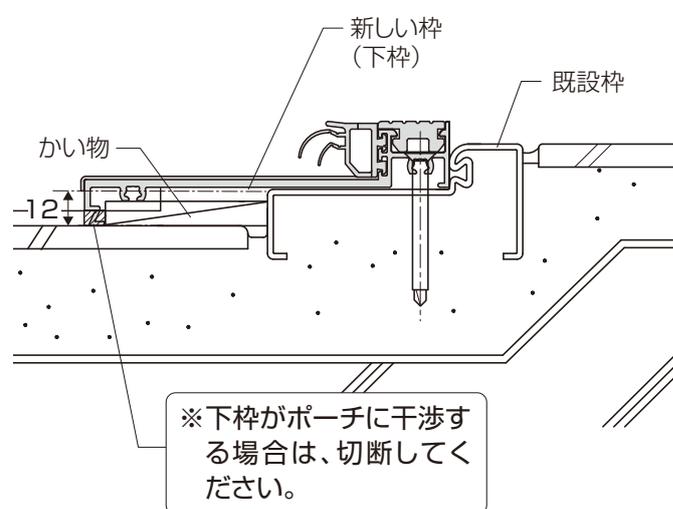
お願い

※親子納まりの場合は、下枠のツボ部分の強度確保のため、受け金具の両脇にかい物を入れてください。



※ポーチと下枠の段差が大きい場合は、下枠補強アングル[下枠用Lアングル]（別途有償品）を枠組立て時に取付けてください。（P51）

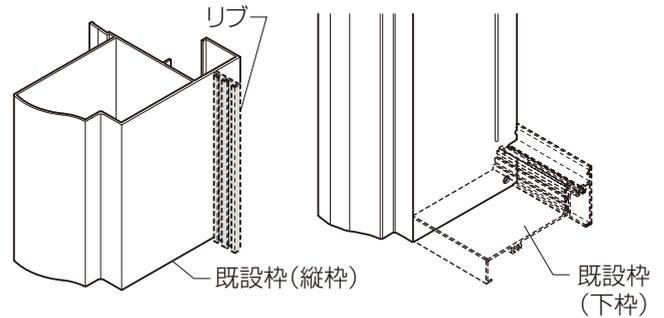
※ポーチと下枠の段差が小さい場合（12mm以下）は、下枠がポーチと干渉するおそれがありますので、確認のうえ干渉する場合は、切断してください。



⑥ドア本体を吊込み後に建付け調整を行い、指定個所へシーリング処置を実施してください。（シーリングの指定個所はP37を参照ください。）

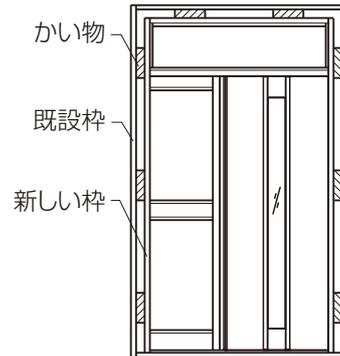
■新しい枠の取付け【躯体固定】（既設枠：半外付枠）

①既設枠の上枠と縦枠の戸当りのリブを切り取り
下枠を取り除きます。



②かい物を入けて、新しい枠の水平・垂直
を正しく出します。

※断熱仕様の場合は既設枠と新しい枠(上枠・縦
枠)を接触させないください。接触すると断熱
性能が確保できなくなる場合があります。



▲注意

●躯体に取付ける際は、製品の強度確保
のため、ねじかかり寸法は必ず20mm
以上にしてください。ドア本体・枠の脱
落のおそれがあります。

③丁番側縦枠の室内側躯体取付けねじ
から順に㊸なベメタルウッドポイン
トねじφ4.8×60で取付けます。

※メタルウッドポイントねじは既設枠
への下穴が不要なねじです。下穴を
開けずに取付けできます。ただし、上
手く取付けできない場合には、ドリ
ルにてφ3の下穴を開けてください。

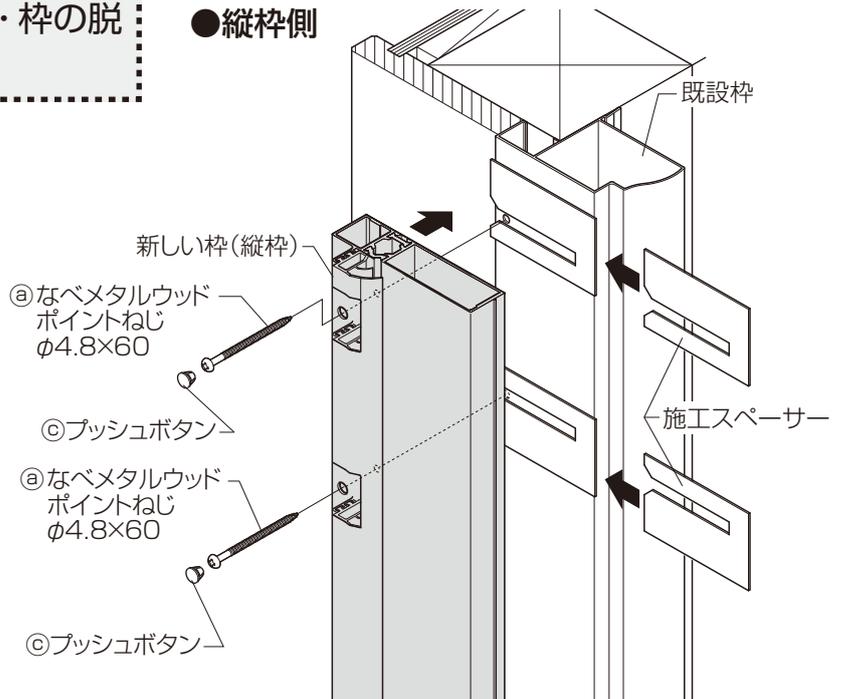
㊸なベメタルウッド
ポイントねじ
φ4.8×60

㊹プッシュボタン

㊸なベメタルウッド
ポイントねじ
φ4.8×60

㊹プッシュボタン

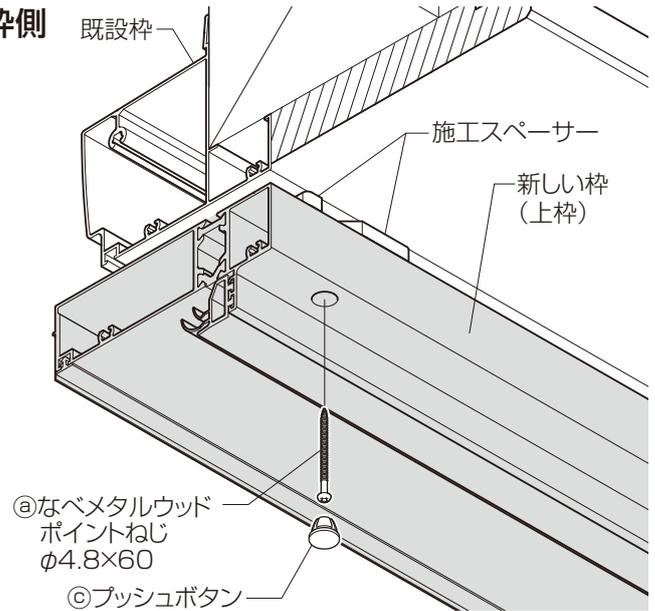
●縦枠側



■新しい枠の取付け【躯体固定】（既設枠：半外付枠）

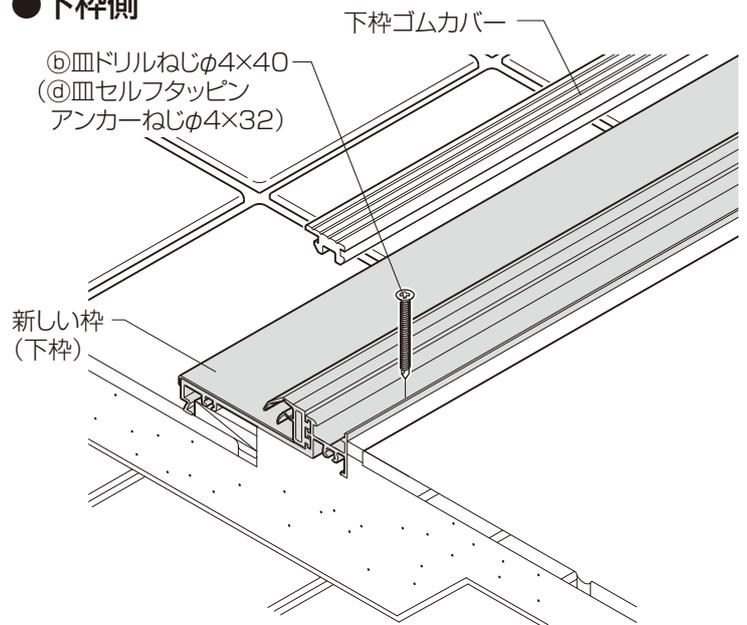
④プッシュボタンをはめ込みます。

●上枠側



⑤本体・子扉部分の下枠ゴムカバー
を取外し、下枠の取付け穴から躯体
にφ3.5の下穴をあけて、皿ドリル
ねじφ4×40で躯体に固定します。
躯体が、コンクリートの場合は、皿
セルフタッピングアンカーねじφ4×
32で固定します。

●下枠側

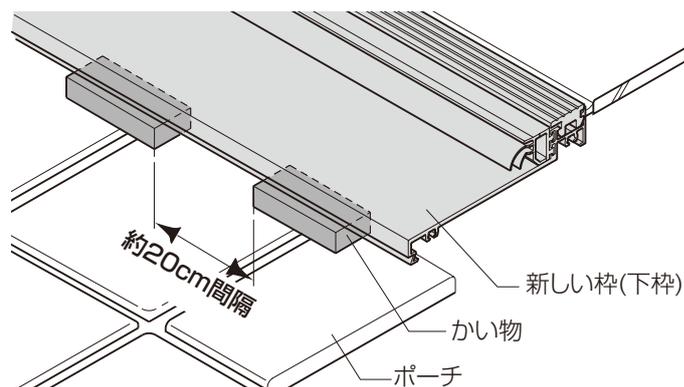


■新しい枠の取付け【躯体固定】（既設枠：半外付枠）

⑥下枠のたわみ防止のため、下枠とポーチとのすき間にかい物を入れます。

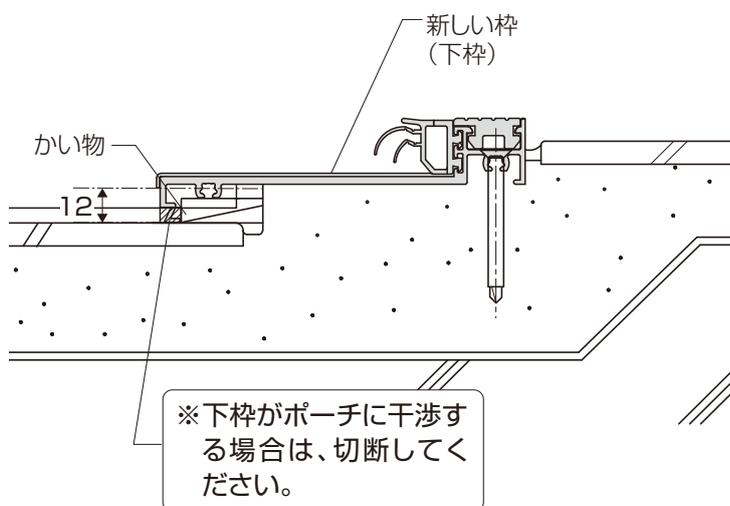
お願い

※親子納まりの場合は、下枠のツボ部分の強度確保のため、受け金具の両脇にかい物を入れてください。



※ポーチと下枠の段差が大きい場合は、下枠補強アングル[下枠用Lアングル]（別途有償品）を枠組立て時に取付けてください。（P51）

※ポーチと下枠の段差が小さい場合（12mm以下）は、下枠がポーチと干渉するおそれがありますので、確認のうえ干渉する場合は、切断してください。



⑦ドア本体を吊込み後に建付け調整を行い、指定個所へシーリング処置を実施してください。（シーリングの指定個所はP37を参照ください。）

■新しい枠の取付け【既設枠固定】（既設枠：半外付枠（非断熱枠））

①かい物を三方に入れて、新しい枠の水平・垂直を正しく出します。

※既設枠と新しい枠(上枠・縦枠)を接触させないください。接触すると断熱性能が確保できなくなる場合があります。

▲注意

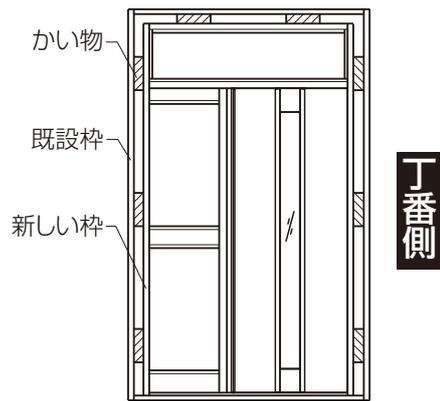
- 既設枠に取付ける際は、製品の強度確保のため、新しい枠取付面の既設枠アルミ厚さが1.4mm以上(スチール枠の場合1.2mm以上)であることを確認してください。ドア本体・枠の脱落のおそれがあります。
- ※旧トステム製半外付枠戸建玄関ドアシリーズは取付け可能です。(ロンカラー等の汎用ドアは対象外)

②丁番側縦枠の室内側躯体取付けねじから順に指定のねじで取付けます。

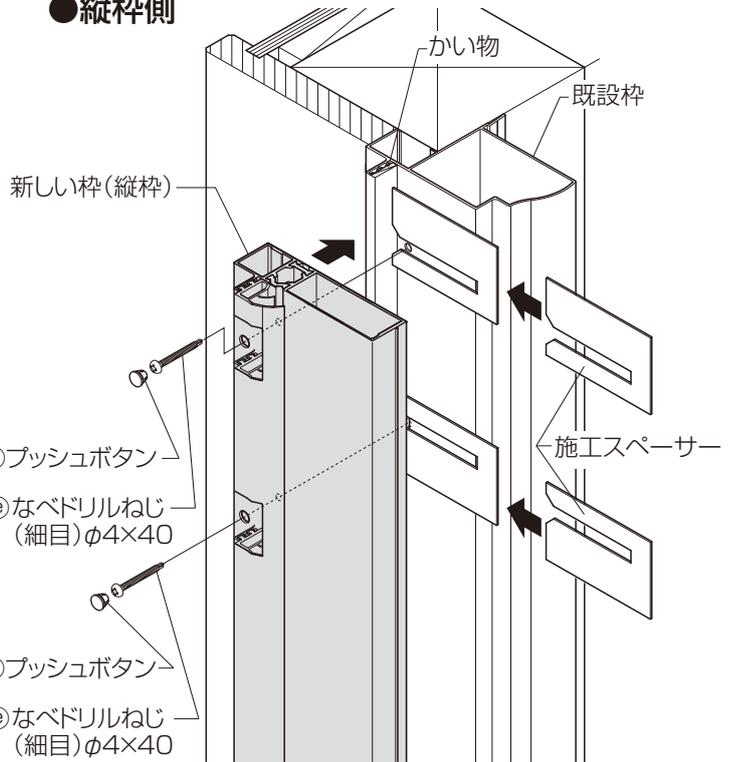
その際、同梱品のねじは使用せず㊸なベドリルねじ(細目)φ4×40で取付けます。(スチール枠の場合、㊹なベドリルねじ(粗目)φ4×40を使用してください。)

▲注意

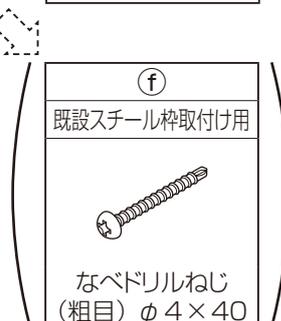
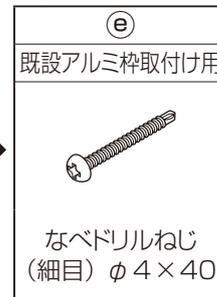
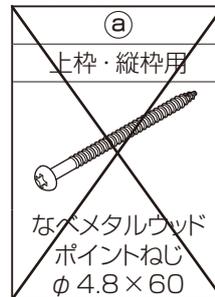
- インパクトドライバーなどの高トルクでねじを締めつける場合には、ねじが効かなくならないようにご注意ください。ドア本体・枠の脱落のおそれがあります。



●縦枠側



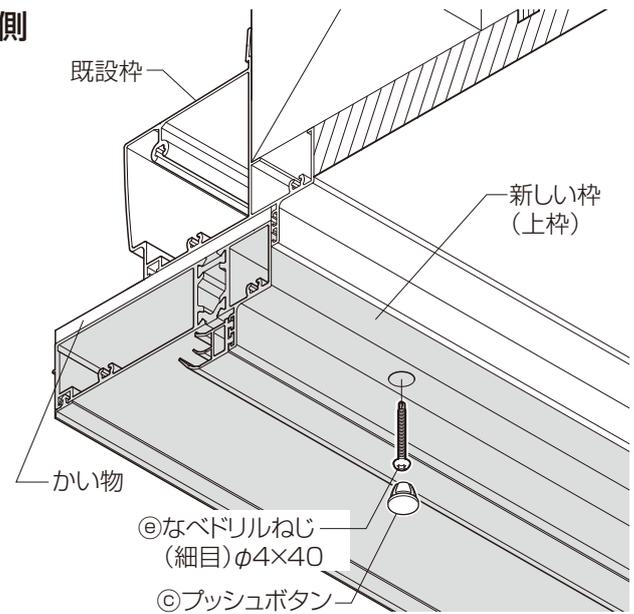
〔同梱品〕使用しません。〔別途有償品〕



■新しい枠の取付け【既設枠固定】（既設枠：半外付枠（非断熱枠））

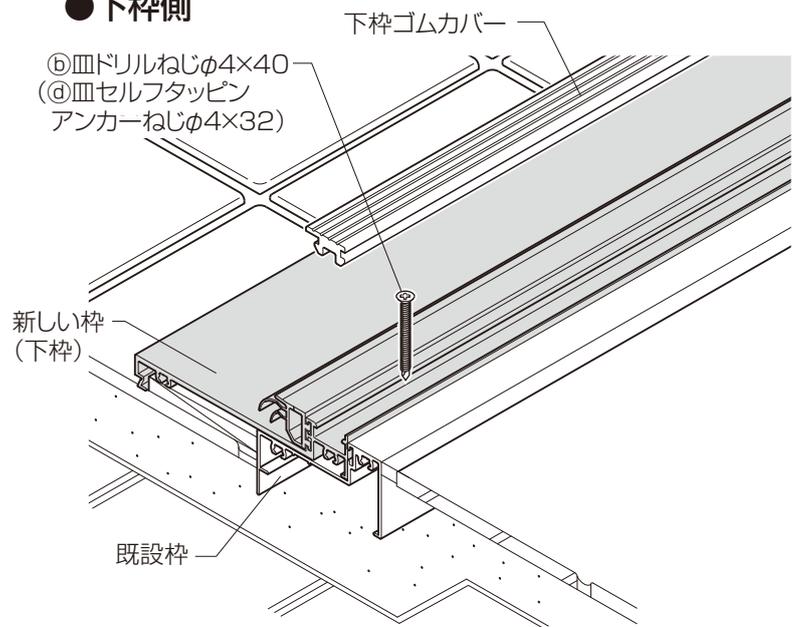
③プッシュボタンをはめ込みます。

●上枠側



④本体・子扉部分の下枠ゴムカバーを取外し、下枠の取付け穴から既設下枠にφ3.5の下穴をあけて、皿ドリルねじφ4×40で既設枠に固定します。既設下枠が、コンクリートの場合は、皿セルフタッピングアンカーねじφ4×32で固定します。

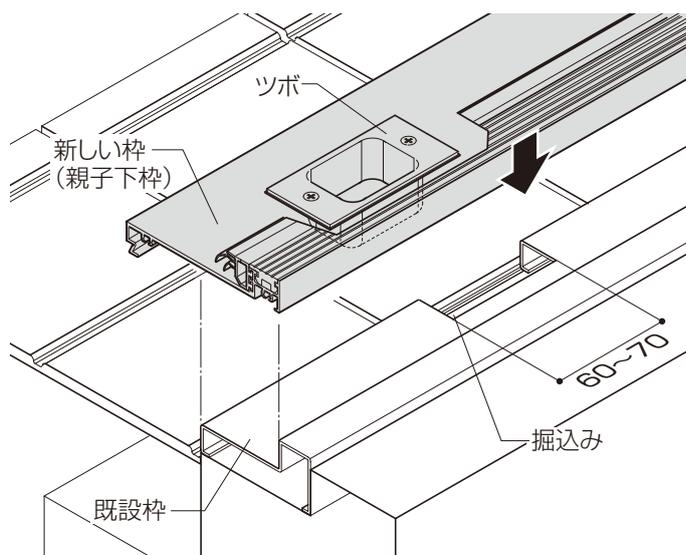
●下枠側



■新しい枠の取付け【既設枠固定】（既設枠：半外付枠（非断熱枠））

【親子の場合】

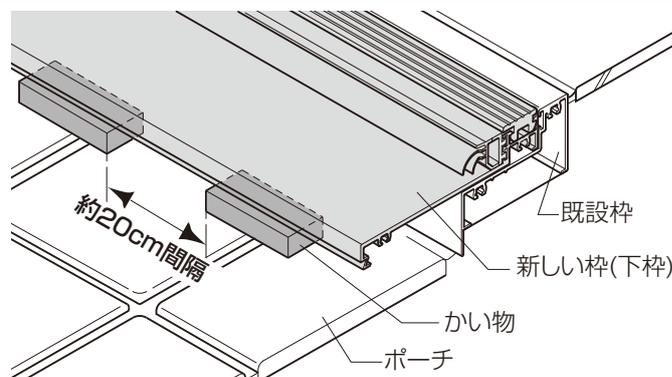
- ツボの突起部が既設枠に当たる場合は、あらかじめ既設枠に掘込みを入れておきます。



- ⑤下枠のたわみ防止のため、下枠とポーチとのすき間にかい物を入れます。

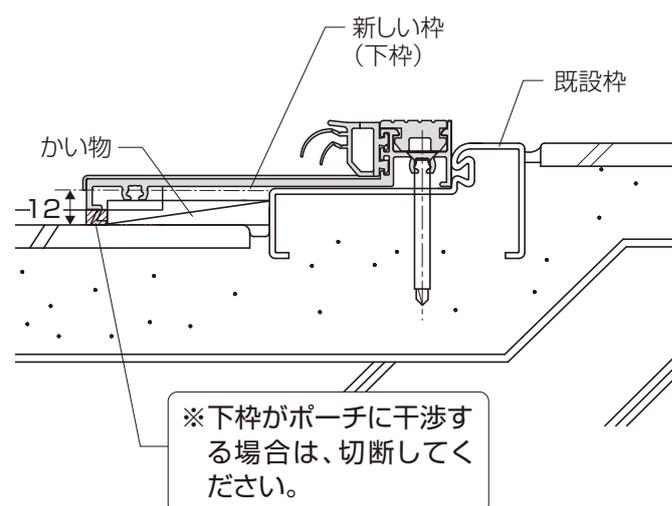
お願い

- ※親子納まりの場合は、下枠のツボ部分の強度確保のため、受け金具の両脇にかい物を入れてください。



- ※ポーチと下枠の段差が大きい場合は、下枠補強アングル[下枠用Lアングル]（別途有償品）を枠組立て時に取付けてください。（P51）

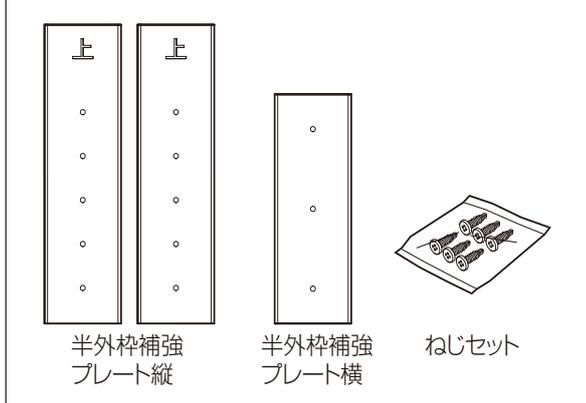
- ※ポーチと下枠の段差が小さい場合（12mm以下）は、下枠がポーチと干渉するおそれがありますので、確認のうえ干渉する場合は、切断してください。



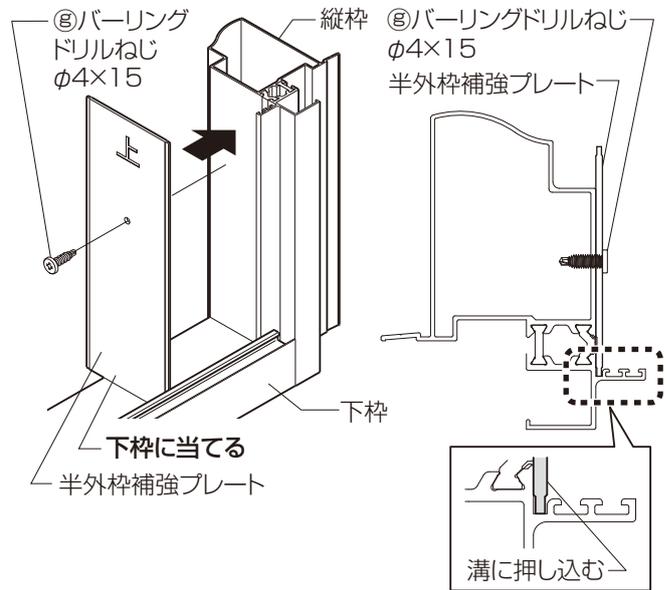
- ⑥ドア本体を吊込み後に建付け調整を行い、指定個所へシーリング処置を実施してください。（シーリングの指定個所はP37を参照ください。）

■新しい枠の取付け【既設枠固定】（既設枠：半外付枠（断熱枠））

半外枠補強プレート(別途有償品)セット内容



- ①半外枠補強プレート(別途有償品)縦を「上」表示を上部にくるように下枠にあて、縦枠の溝に押し込み、㊸バーリングドリルねじφ4×15で取付けてください。
※既設枠に加工がある場合はその上下にねじ止めしてください。
- ②半外枠補強プレート横を親扉の吊元側縦枠にあて、上枠の溝に押し込み、㊸バーリングドリルねじφ4×15で取付けてください。



▲注意

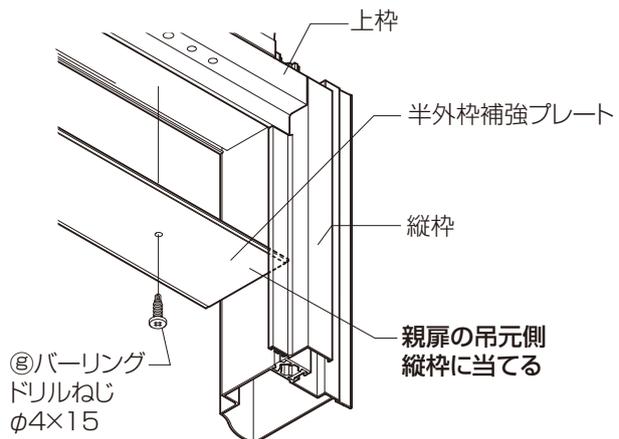
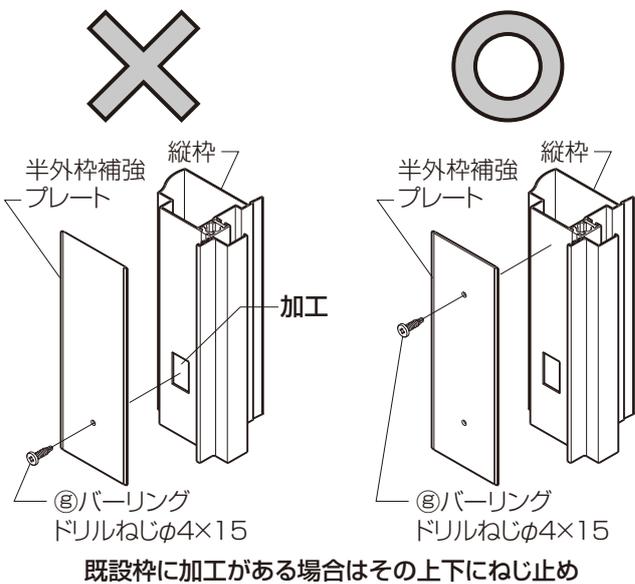
- 既設枠に下穴をあける場合は、φ2.5以下にしてください。大きな下穴をあけてしまうとねじが効かなくなり、ドア本体・枠の脱落のおそれがあります。

▲注意

- 既設枠に取付ける際は、製品の強度確保のため、新しい枠取付面の既設枠アルミ厚さが1.4mm以上(スチール枠の場合1.2mm以上)であることを確認してください。ドア本体・枠の脱落のおそれがあります。
※旧トステム製半外付枠戸建玄関ドアシリーズは取付け可能です。(ロンカラー等の汎用ドアは対象外)

▲注意

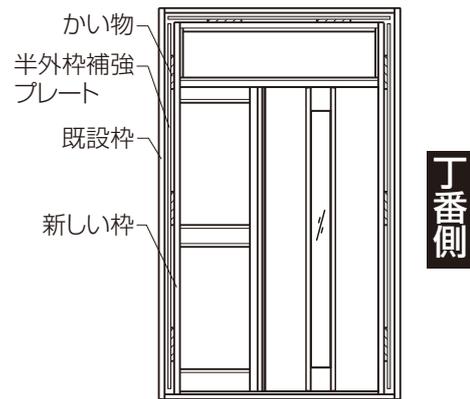
- インパクトドライバーなどの高トルクでねじを締めつける場合には、ねじが効かなくならないようにご注意ください。ドア本体・枠の脱落のおそれがあります。



■新しい枠の取付け【既設枠固定】（既設枠：半外付枠（断熱枠））

③かい物を三方に入れて、新しい枠の水平・垂直を正しく出します。

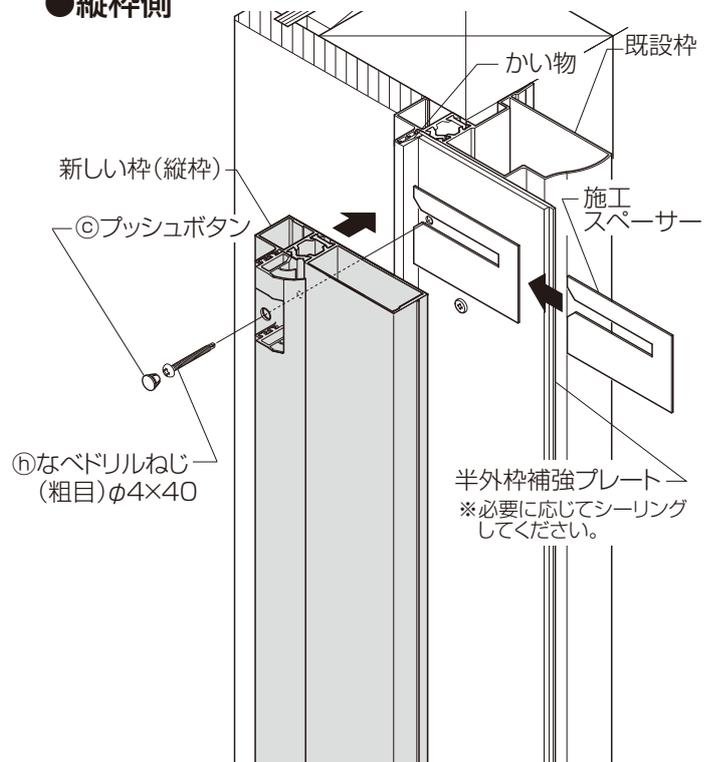
※半外枠補強プレートと新しい枠(上枠・縦枠)を接触させないください。接触すると断熱性能が確保できなくなる場合があります。



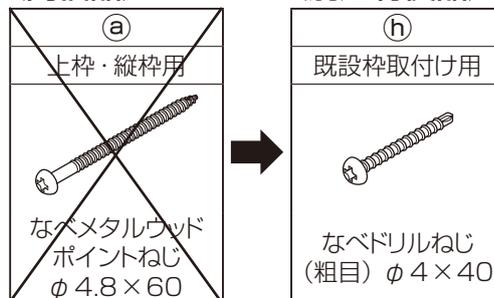
④新しい枠を⑥なべドリルねじ(粗目)φ4×40で取付けます。(同梱品のねじは使用しません。)

※必ず施工スペーサーを使用し、縦枠を半外枠補強プレートに接触させないでください。接触すると断熱性能が確保できなくなる場合があります。

●縦枠側



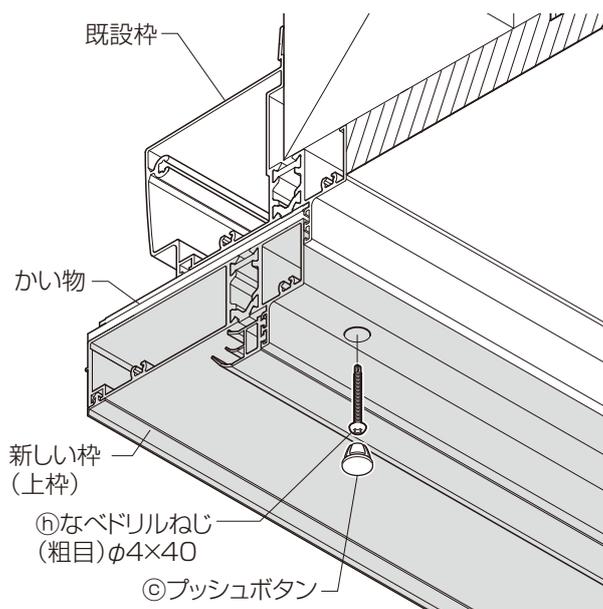
【同梱品】使用しません。【別途有償品】



■新しい枠の取付け【既設枠固定】（既設枠：半外付枠（断熱枠））

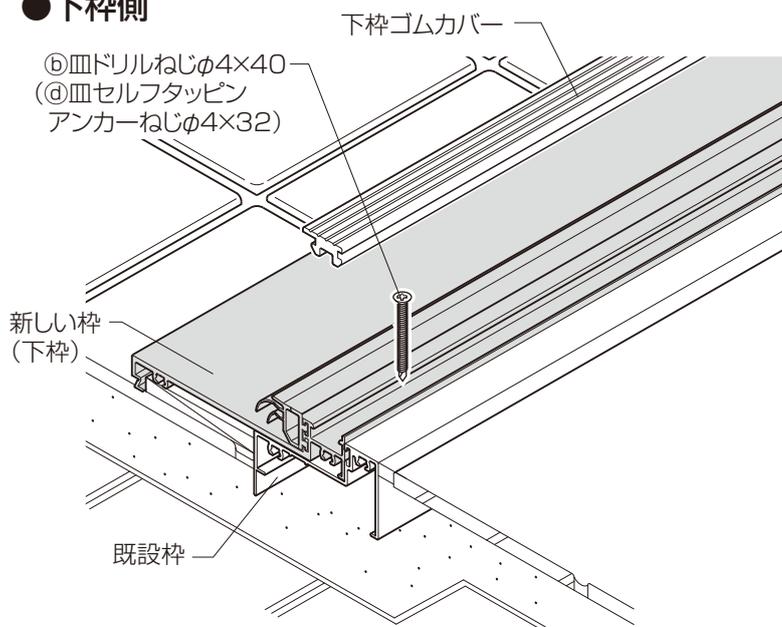
⑤ プッシュボタンをはめ込みます。

●上枠側



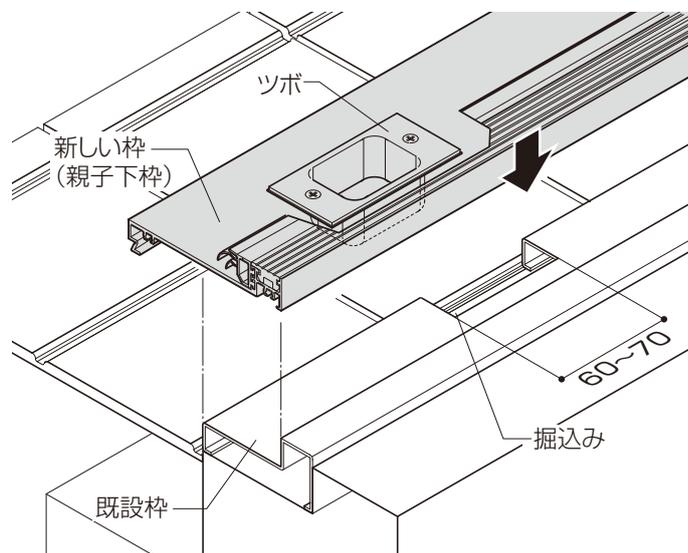
⑥ 本体・子扉部分の下枠ゴムカバーを取外し、下枠の取付け穴から既設下枠にφ3.5の下穴をあけて、皿ドリルねじφ4×40で既設枠に固定します。既設下枠が、コンクリートの場合は、皿セルフタッピングアンカーねじφ4×32で固定します。

●下枠側



【親子の場合】

● ツボの突起部が既設枠に当たる場合は、あらかじめ既設枠に掘込みを入れておきます。

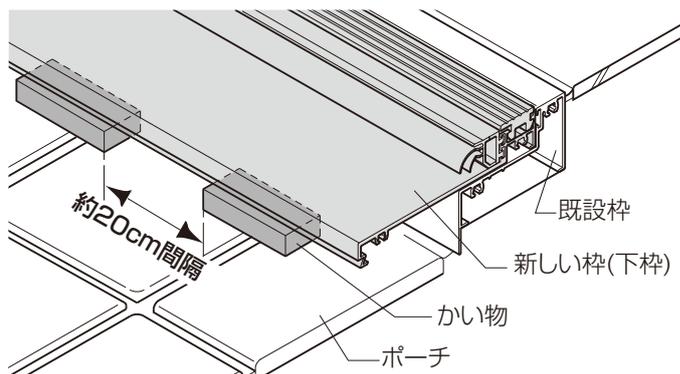


■新しい枠の取付け【既設枠固定】（既設枠：半外付枠（断熱枠））

⑦下枠のたわみ防止のため、下枠とポーチとのすき間にかい物を入れます。

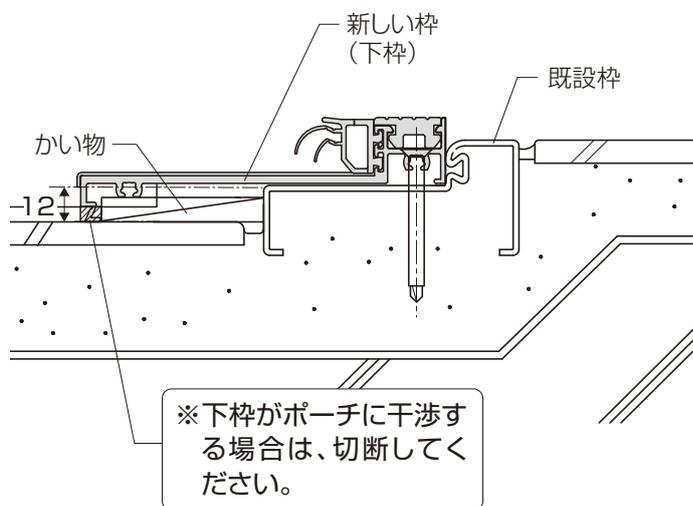
お願い

※親子納まりの場合は、下枠のツボ部分の強度確保のため、受け金具の両脇にかい物を入れてください。



※ポーチと下枠の段差が大きい場合は、下枠補強アングル[下枠用Lアングル]（別途有償品）を枠組立て時に取付けてください。（P51）

※ポーチと下枠の段差が小さい場合（12mm以下）は、下枠がポーチと干渉するおそれがありますので、確認のうえ干渉する場合は、切断してください。



⑧ドア本体を吊込み後に建付け調整を行い、指定個所へシーリング処置を実施してください。（シーリングの指定個所はP37を参照ください。）

■建付け調整

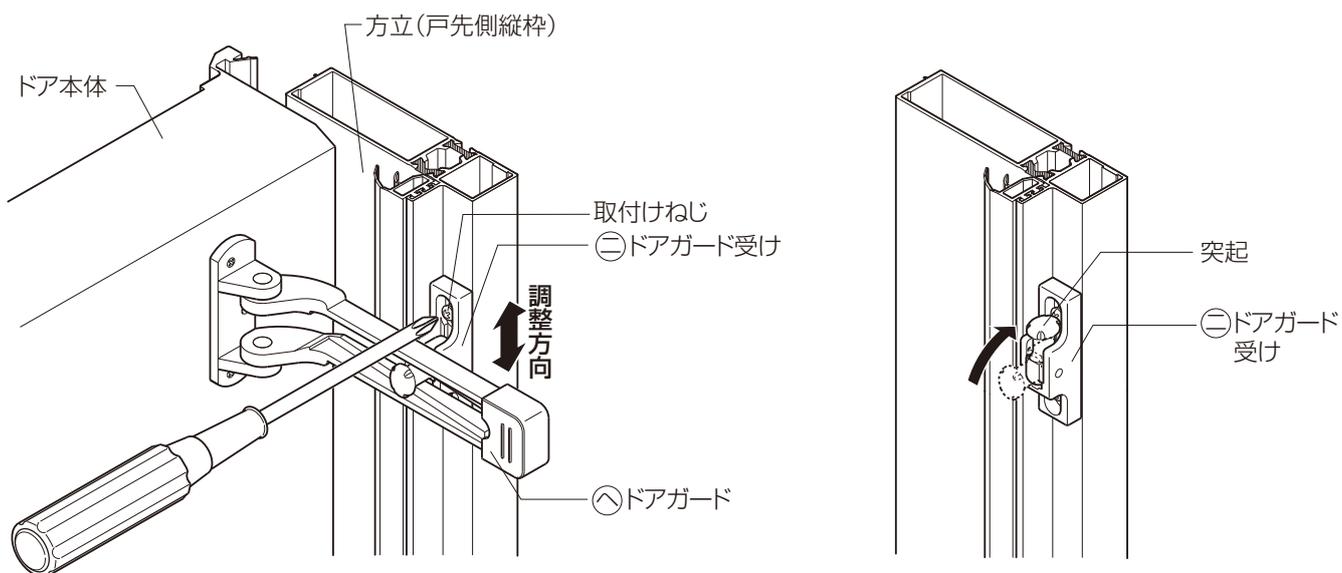
■ドアガードの調整

※ドアガードアームはあらかじめ本体の加工穴に合わせ、指定のねじで取付けてください。

※ドアガードが受けに掛らない場合は、受けの取付けねじをゆるめ、位置を調整してください。
(本体側のドアガードは調整できません。)

●ドアガードアームがスムーズに操作できるか、確認してから本固定してください。

●ドアガードを使用しない場合は、受けの突起を収納してください。



■子扉の前後方向の調整

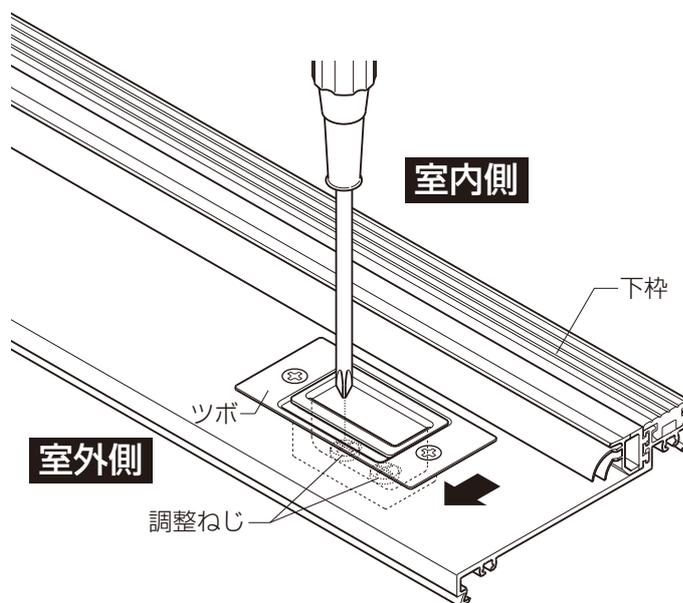
(親子・両開きドアの場合)

①子扉を開けます。

②ツボ内部の調整ねじをゆるめ、位置を調整してください。室外側に3.5mmまで子扉位置を調整できます。

※上枠・下枠共に調整できます。

※下枠のツボの中に砂などがたまった場合は、清掃してください。



■建付け調整

■ドア本体の調整

※ドア本体を吊込んだ後、枠とドア本体のすき間が納まり凶通りであるか確認してください。

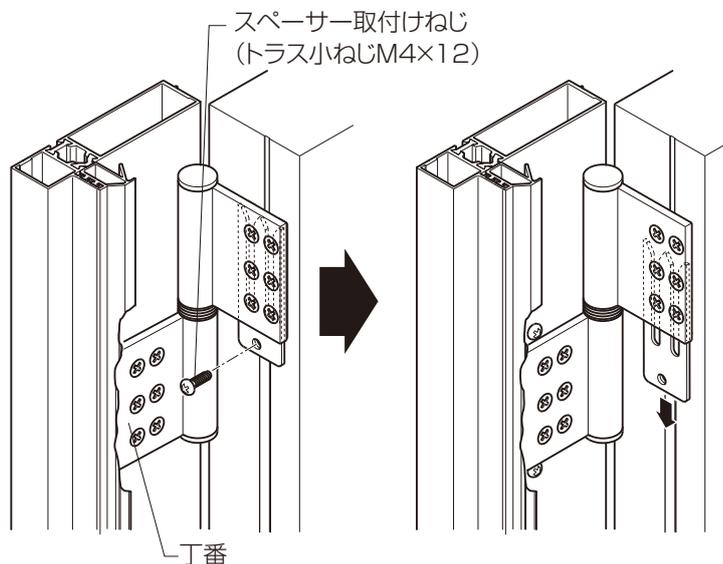
納まり凶通りでない場合は、以下の手順ですき間を調整してください。

〔左右方向のすき間の調整〕

※スペーサーはあらかじめ本体に取付けてあります。

- ①スペーサー取付けねじを外します。
- ②丁番取付けねじ（6本）をゆるめます。
- ③スペーサーを引き抜いて外します。
- ④丁番ねじを締付けます。

※スペーサーを1枚外すと1.5mm、2枚外すと3mmドア本体がつり元側へ寄ります。
※スペーサーを追加すると、戸先側へ寄ります。

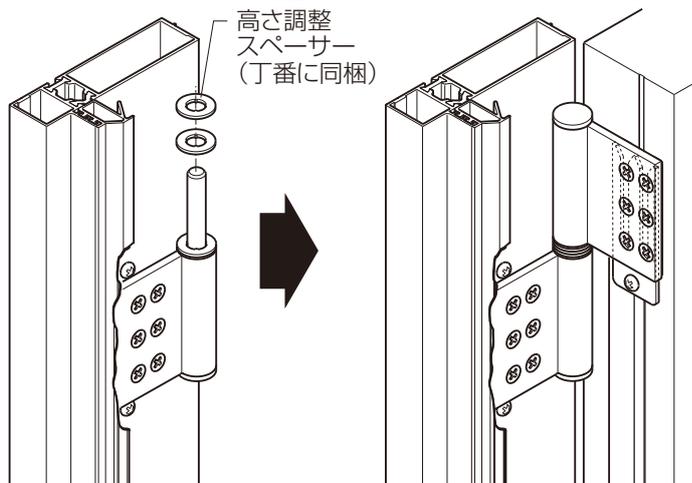


▲注意

- 丁番取付けねじを全部外さないでください。本体が脱落し、ケガをするおそれがあります。

〔上下方向のすき間の調整〕

- ドアを枠から外し、丁番の軸に付属の高さ調整スペーサー（丁番に同梱）を入れます。
- ※1枚入れると1.5mm、2枚入れると3mmドアが上に上がります。

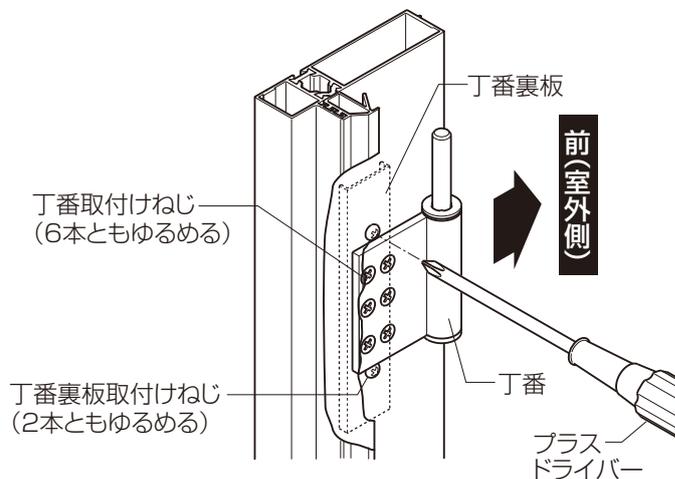


〔前後（室内・室外側）方向の調整〕

- ①ドア本体を枠から外し、枠側の丁番取付けねじ（6本）と丁番裏板取付けねじ（2本）をゆるめます。
- ②丁番裏板ごと前に出すと室外側に1.5mm、後にずらすと、-1.5mmまでドア本体が動きます。
- ③①でゆるめた丁番取付けねじと丁番裏板取付けねじを締付けます。

▲注意

- 丁番取付けねじ、および丁番裏板取付けねじは増締めをして締付けてください。（締付けトルクは、 $2.5 \pm 0.5 \text{ N} \cdot \text{m}$ { $25 \pm 5 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$ })
ドア本体の脱落のおそれがあります。



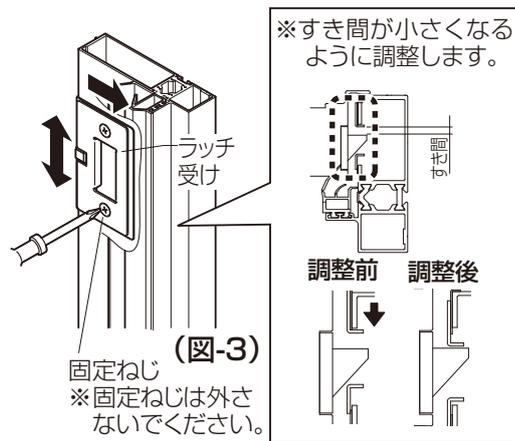
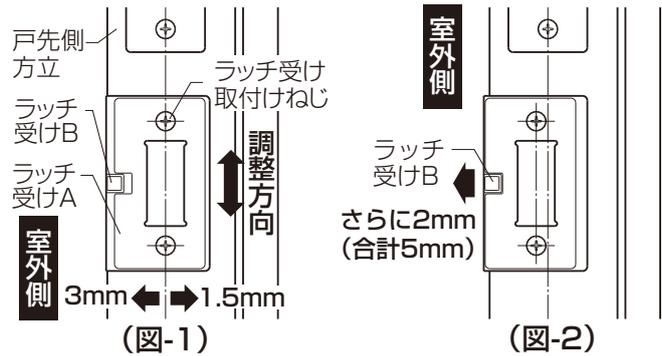
- お願い
※取付けねじを全部外さないでください。丁番裏板が脱落します。

■建付け調整

■ラッチ受け・ストライクの調整

①ラッチ受けの調整(図-1、図-2、図-3)

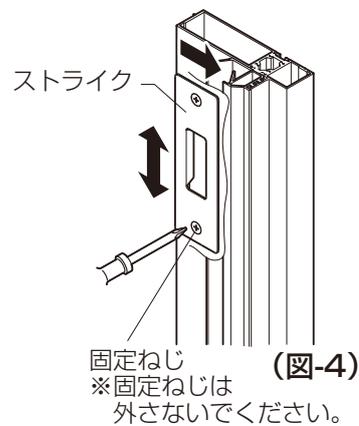
- ①ラッチ受けの固定ねじを2本とも回しゆるめます。
- ②ラッチ受けの位置を合わせてからねじを締直します。



②ストライクの調整(図-4)

※ラッチ受け調整後、どうしても鍵が掛からない場合に実施してください。

- ①ストライクの固定ねじを2本ともゆるめます。
- ②ストライクの位置を合わせてからねじを締直します。



・お願い・

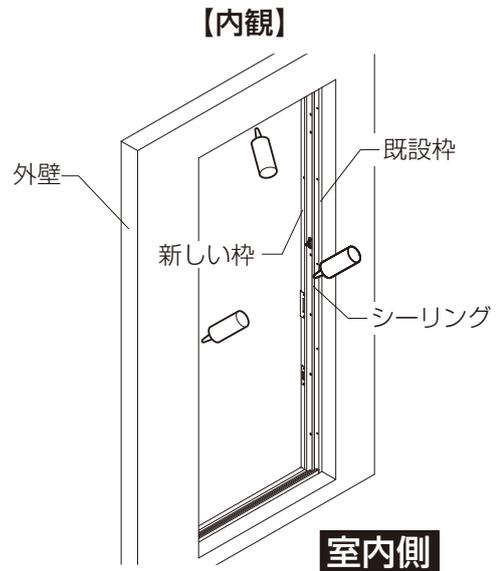
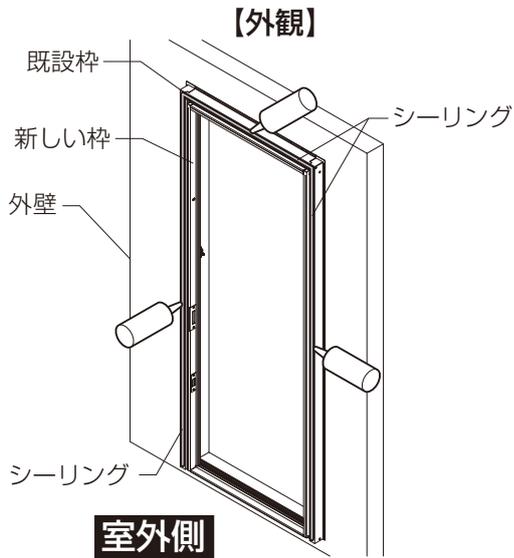
- ※ストライク取付けねじを全部外さないでください。トロコケが脱落し、取付けられなくなります。
- ※ラッチ受け・ストライクの調整はドアクローザーの調整と合わせて行ってください。

■シーリング

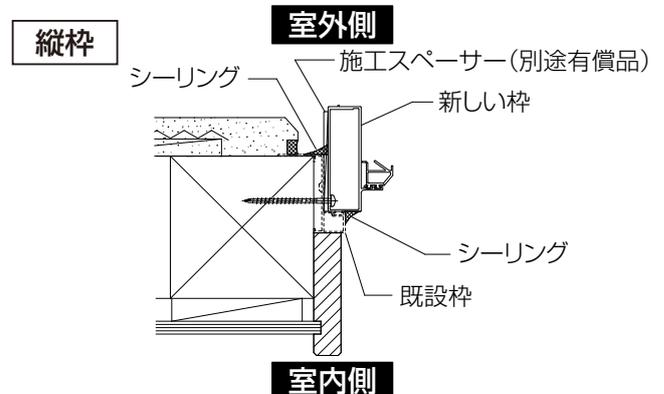
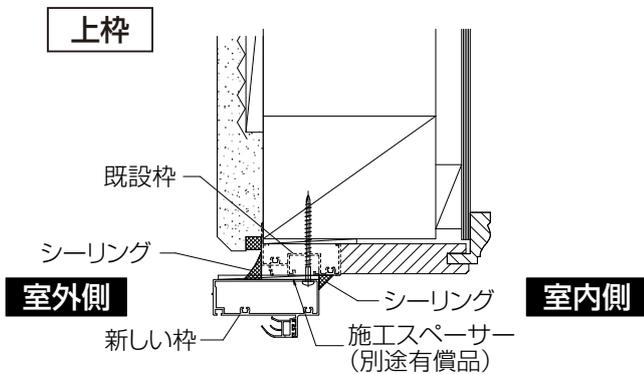
既設枠と新しい枠の間にシーリング材を充てんしてください。施工スペーサーがある箇所は施工スペーサーも覆うようにシーリング材を充てんしてください。

▲注意

- 外壁工事を伴わない取付けの場合は、指定の個所にシーリング材を充てんしてください。漏水の原因となります。

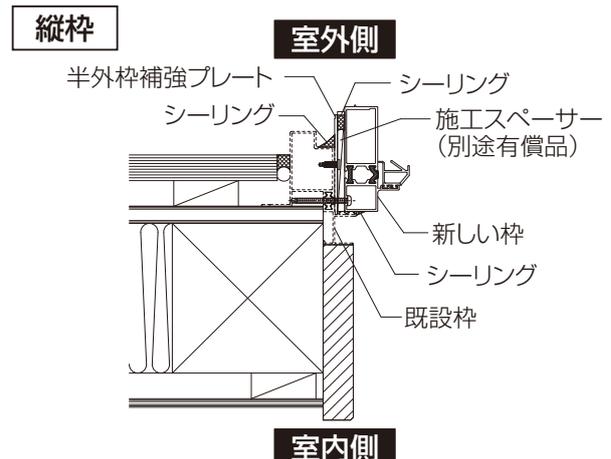
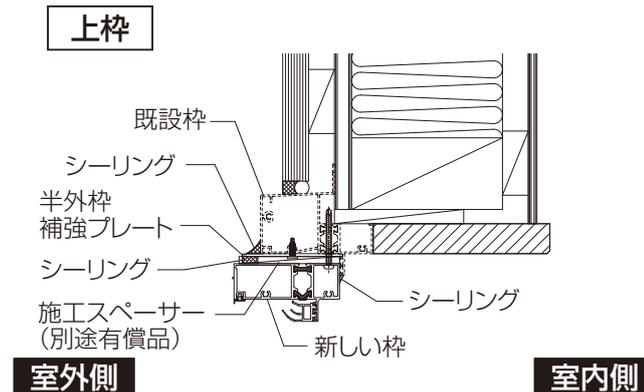


●既設枠が内付枠の場合



●既設枠が半外付枠の場合

※既設枠が断熱仕様の場合は半外枠補強プレートと既設枠のすき間にシーリングを充てんしてください。(既設枠が非断熱枠の時、半外枠補強プレートはありません。)



■内額縁の取付け

1 内額縁の切詰め

①現場の納まりに合わせて、内額縁を必要な長さに切詰めます。

※縦額縁は右図のように、長めに設定されています。

②既設の室内額縁の納まりに合わせて、

内額縁を必要に応じて切断します。

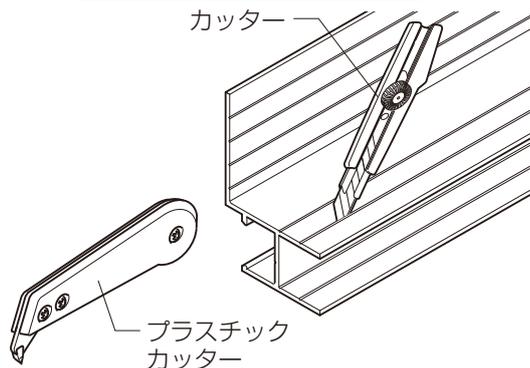
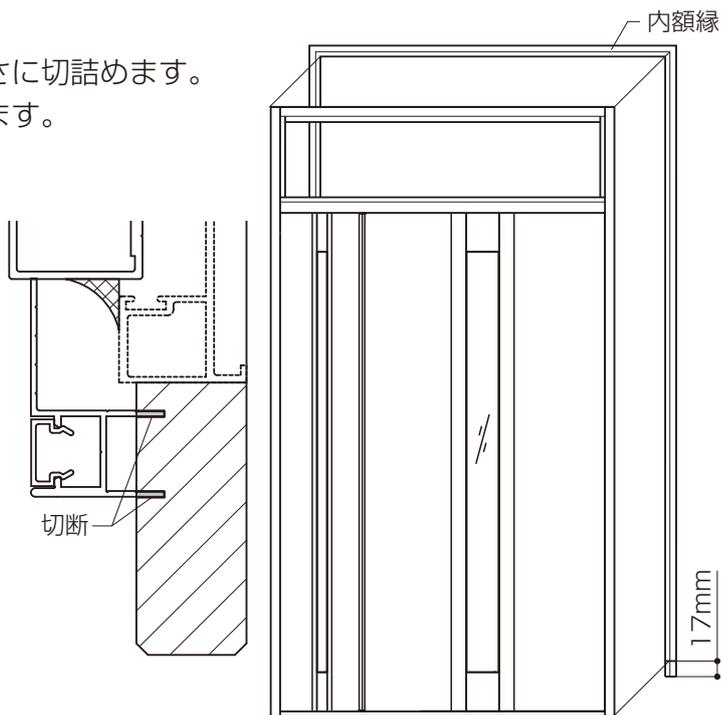
【切断方法1】…カッター・ペンチ・プライヤーを使用する場合

●内額縁の裏面にある溝から、納まりに合う位置の溝にカッター（プラスチックカッター等）で部材全長に溝を切込みます。この時アルミ型材の厚みを6割以上切込んでください。



●プライヤー（ペンチ等）で下図のように3段階の角度にわけて折り曲げます。

①段目の角度まで部材の端から端まで折り曲げます。同じように②段目の角度まで部材の端から端まで折り曲げてから、③段目まで折り曲げて切離します。木目色の場合、最後に木目シート1枚でつながっている状態になってからカッターで木目シートを切離してください。または、②段目の角度まで折り曲げてから木目シート側（谷側）からカッターで切れ込みを入れ、シートを切離してから再度折り曲げて切離してください。

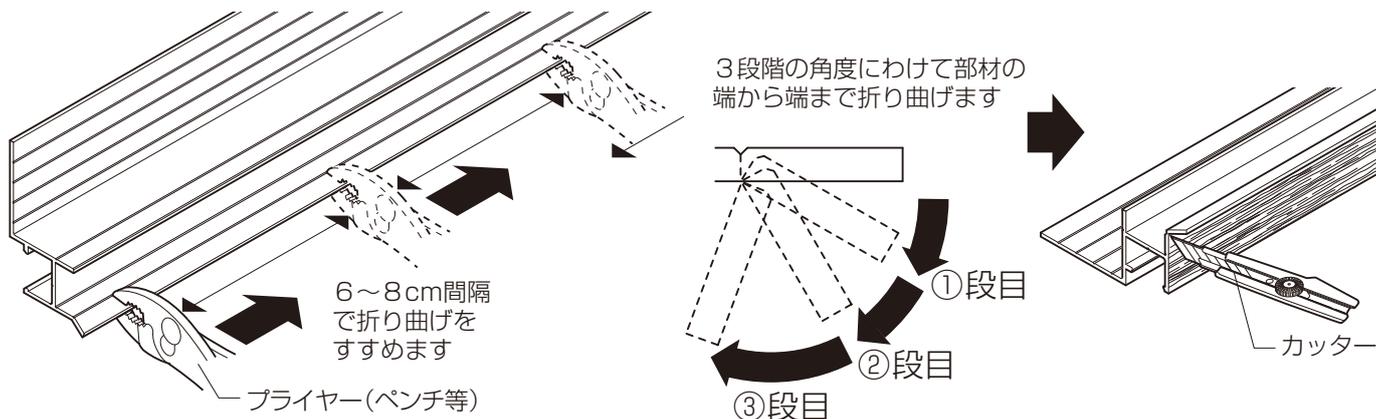


●お願い

※無理に折り曲げたり、部分的に1度で折り曲げないでください。ひずみの発生や、木目色の場合木目シートがはがれる原因になります。折り曲げが難しい場合はもう一度カッター等で溝を深く切込みなおしてください。

※サンダー等、熱を発する刃物で切断しないでください。木目シートやアルミ表面が焼ける原因になります。

※切断後はバリ取りをしてください。



【切断方法2】…丸のこを使用する場合

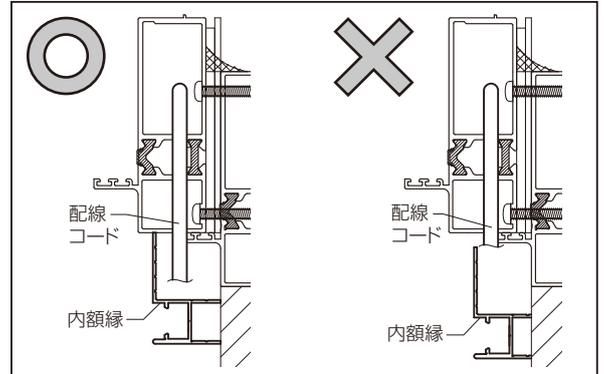
●納まりに合う位置に印を付け、丸のこで切断します。

■内額縁の切り欠き加工

< FamiLock AC100V 式 > の場合

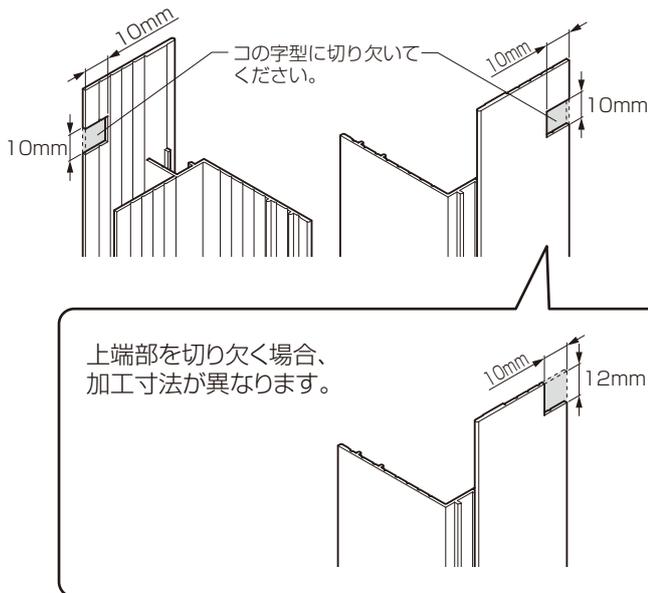
●配線コードを枠外へ引き出すために、内額縁に切り欠き加工が必要になります。

①内額縁を枠に当てて配線コードが隠れることを確認してください。

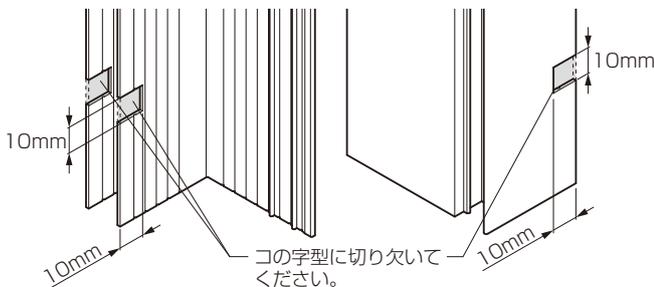


②配線コード引き出し用のグロメットを取付けるために、本体丁番側の内額縁の一部を下図のようにコの字型に切り欠いてください。

■上部を切り欠く場合



■上部以外を切り欠く場合



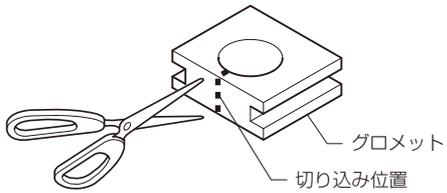
※内額縁（小）は型材の形状上、上部にしかグロメットを取付けできません。

※現場の納まりによっては、内額縁にグロメットを取付けできない場合があります。

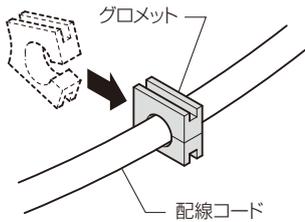
取付けできない場合は配線コードを引き出せるように内額縁を切り欠いて対応してください。

●グロメットの取付け

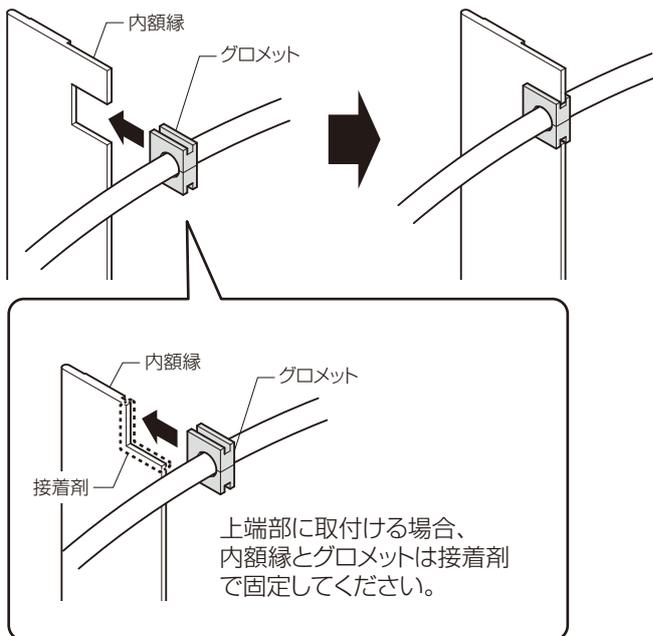
1.グロメットにハサミまたはカッターで切り込みを入れてください。



2.配線コードにグロメットを取付けてください。

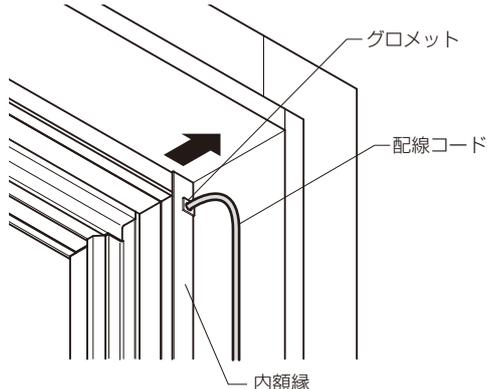


3.内額縁にグロメットを取付けてください。

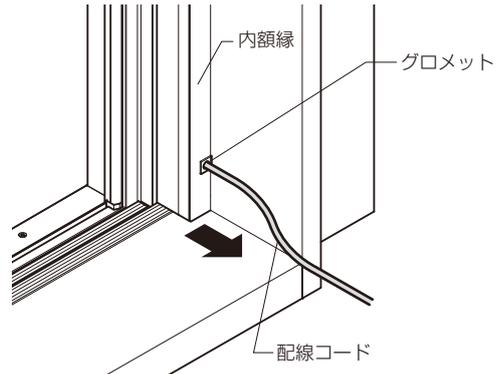


③グロメットまたは切り欠き箇所から配線コードを引き出し内額縁を取付けてください。

■上部を切り欠く場合



■下部を切り欠く場合



※引き出した配線コードは、配線カバー等で仕上げてください。

2 内額縁の取付け

※右記のねじで取付けます。

①既設枠が隠れるようにし、下図の位置に横額縁を取付けます。

②横額縁に溝フタを取付けます。

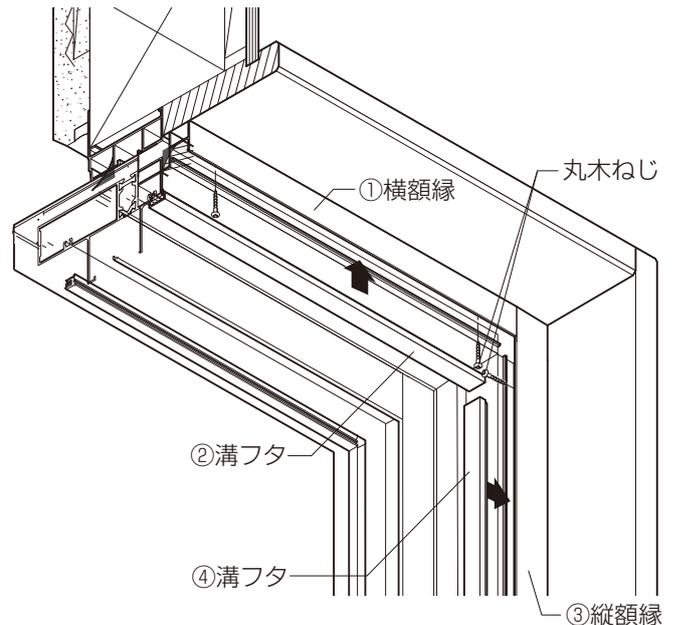
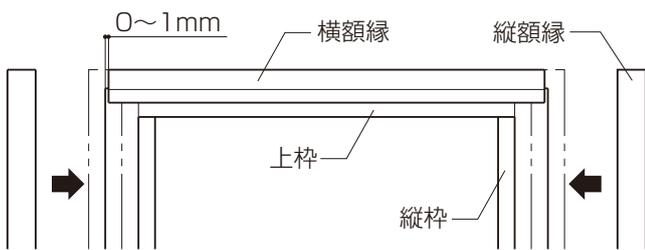
③既設枠が隠れるようにし、切り欠き部を横額縁にはめて縦額縁を取付けます。

④縦額縁に溝フタを取付けます。

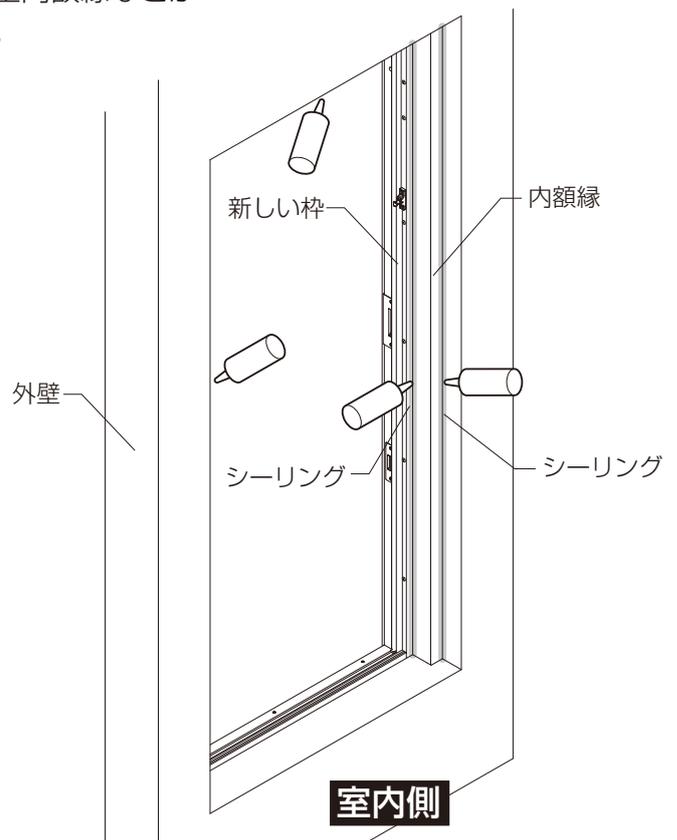
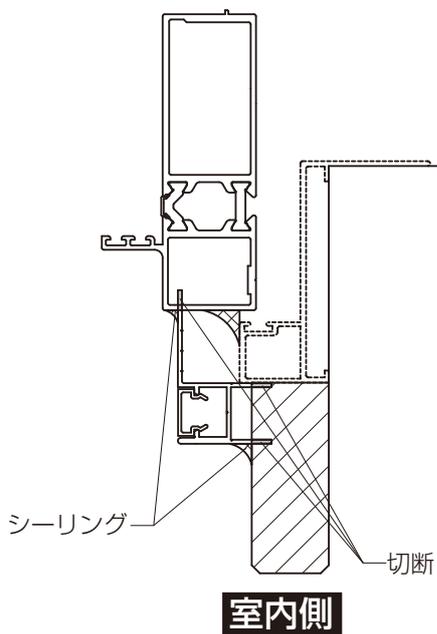
※溝フタは完全にはめ込んだことを確認してください。

■使用ねじ一覧

①	②	③
内額縁 (小) 取付け用	内額縁 (大) 取付け用	内額縁 (特大) 取付け用
		
丸木ねじφ 3.8×32	丸木ねじφ 3.8×50	丸木ねじφ 3.8×90



※内額縁を切断し、切り口が目立つ場合や、既設の室内額縁などが反っている場合は、シーリングで隠してください。



②外壁の納まりに合わせて、外額縁を必要に応じて切断します。

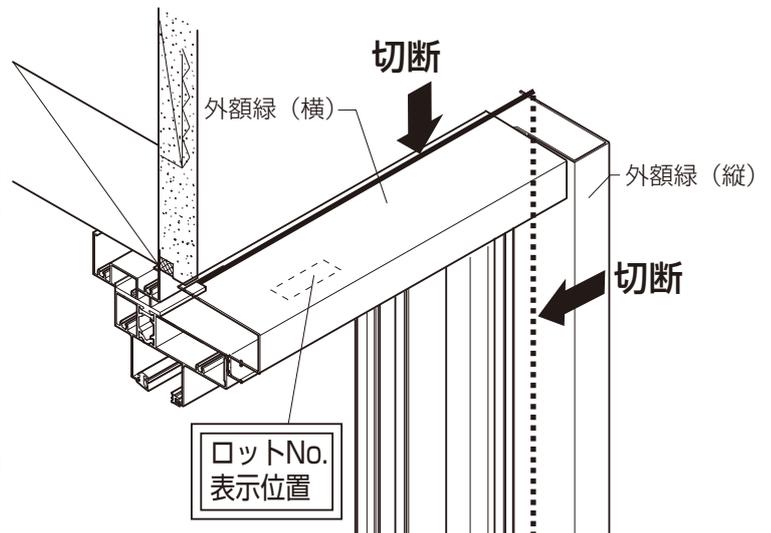
【切断方法1】…カッター・ペンチ・プライヤーを使用する場合

●外額縁の裏面にある溝から、納まりに合う位置の溝にカッター（プラスチックカッター等）で部材全長に溝を切込みます。この時アルミ型材の厚みを6割以上切込んでください。



●プライヤー（ペンチ等）で下図のように3段階の角度にわけて折り曲げます。

①段目の角度まで部材の端から端まで折り曲げます。同じように②段目の角度まで部材の端から端まで折り曲げてから、③段目まで折り曲げて切離します。木目色の場合、最後に木目シート1枚でつながっている状態になってからカッターで木目シートを切離してください。または、②段目の角度まで折り曲げてから木目シート側（谷側）からカッターで切れ込みを入れ、シートを切離してから再度折り曲げて切離してください。

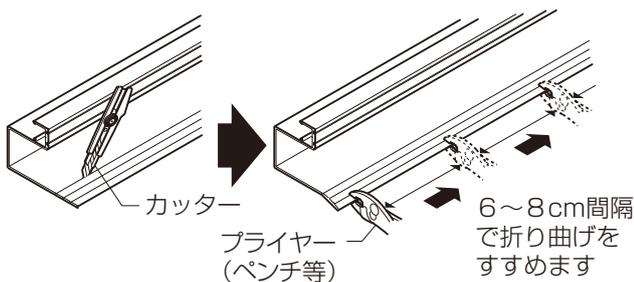


お願い

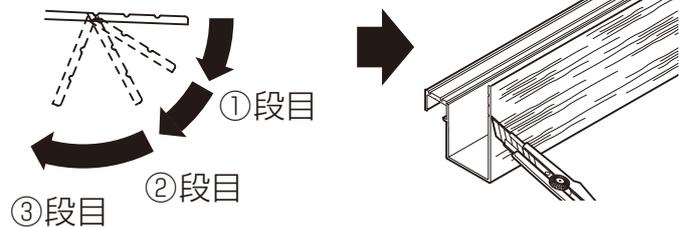
※無理に折り曲げたり、部分的に1度で折り曲げないでください。ひずみの発生や、木目色の場合木目シートがはがれる原因になります。折り曲げが難しい場合はもう一度カッター等で溝を深く切込みなおしてください。

※サンダー等、熱を発生する刃物で切断しないでください。木目シートやアルミ表面が焼ける原因になります。

※切断後はバリ取りをしてください。



3段階の角度にわけて部材の
端から端まで折り曲げます



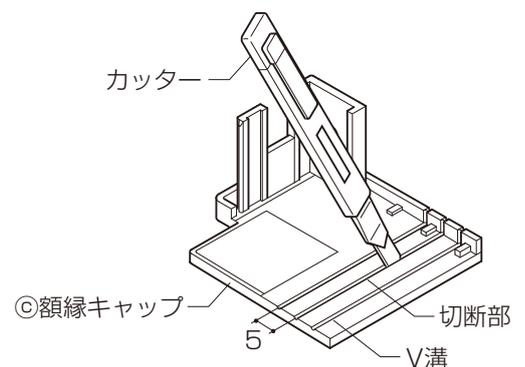
【切断方法2】…丸のこを使用する場合

●納まりに合う位置に印を付け、丸のこで切断します。

2 額縁キャップの切断

●納まりに合わせて切詰めた外額縁と同じ位置にくるV溝に、カッターで数回切れ目を入れ、カットしてください。

※額縁キャップには、カッターで切りやすいように5mm間隔でV溝が入っています。



3 外額縁の取付け

①外額縁（横）を調整溝に差込み、
 ㊸なベドリルねじφ4×13で枠
 に取付けます。

②溝フタ（横）を外額縁（横）に取付
 けます。

※溝フタは、完全にはめ込んだことを
 確認してください。

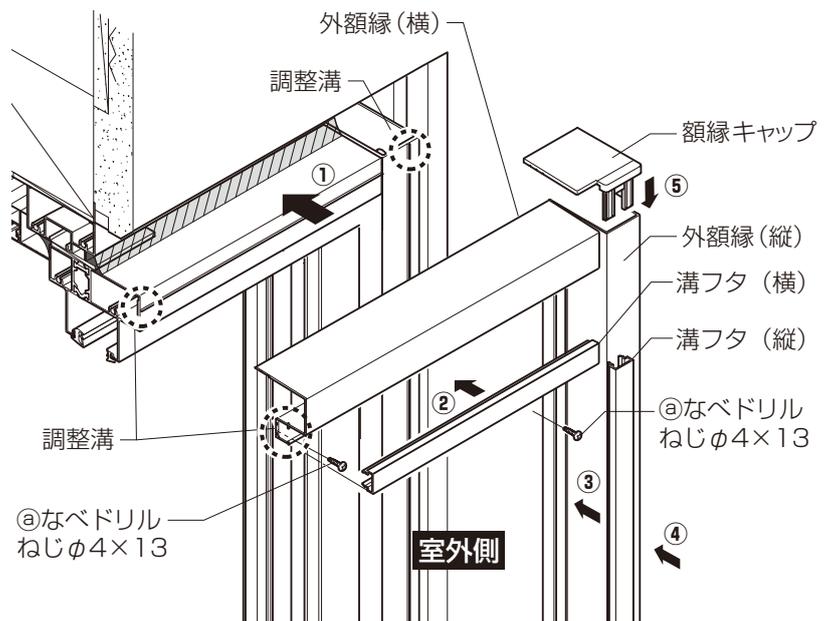
③外額縁（縦）を調整溝に差込み、
 ㊸なベドリルねじφ4×13で枠
 に取付けます。

④溝フタ（縦）を外額縁（縦）に取付
 けます。

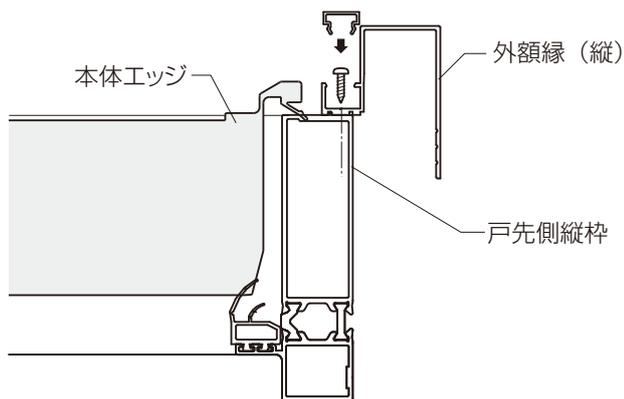
※溝フタは、完全にはめ込んだことを
 確認してください。

⑤裏面の両面テープをはがして、
 額縁キャップを外額縁（縦）に取付
 けてください。

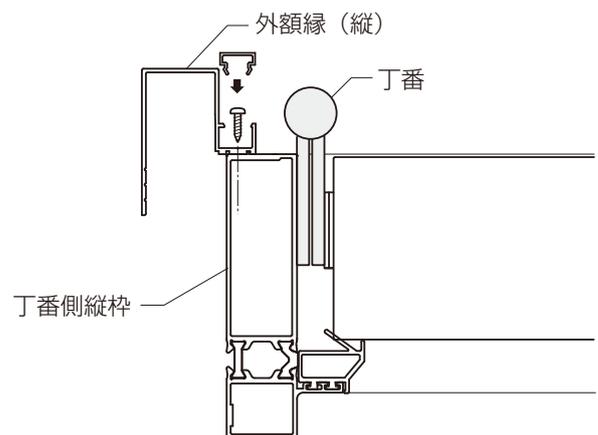
※外額縁（縦）と外額縁（横）の間に
 すき間がある場合は、位置を調整し、
 外額縁（横）を室外側に起こしなが
 ら、額縁キャップを張り付けてくだ
 さい。



※片開きの場合、戸先側縦枠に取付ける額縁は、
 本体エッジが当たらない位置に取付けてくだ
 さい。

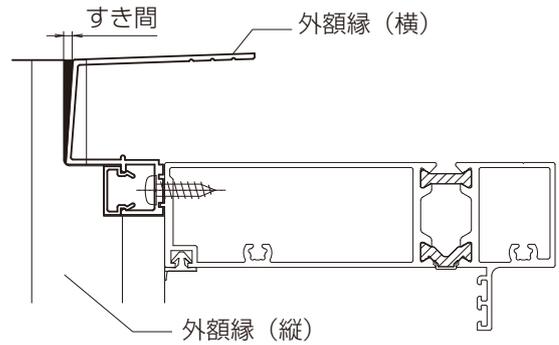


※丁番側に取り付ける額縁は、丁番が当たらない
 位置に取付けてください。

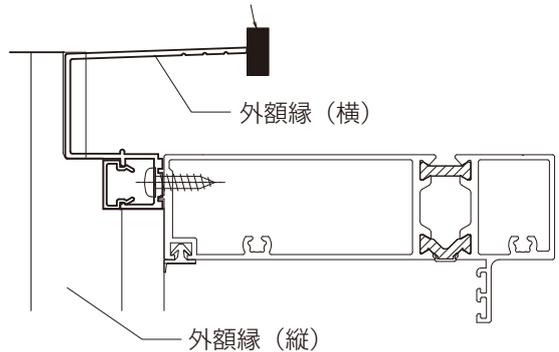


■すき間発生時の対応

外額縁取付け時、現場の状況により外額縁（縦）の加工部にすき間があくことがあります。すき間発生時は、外額縁（横）の後ろにかい物を入れて外額縁（横）をおこしてください。



すき間が発生した場合は、かい物を入れる



※外周部のシーリング処理前に実施してください。

■外周部のシーリング処理

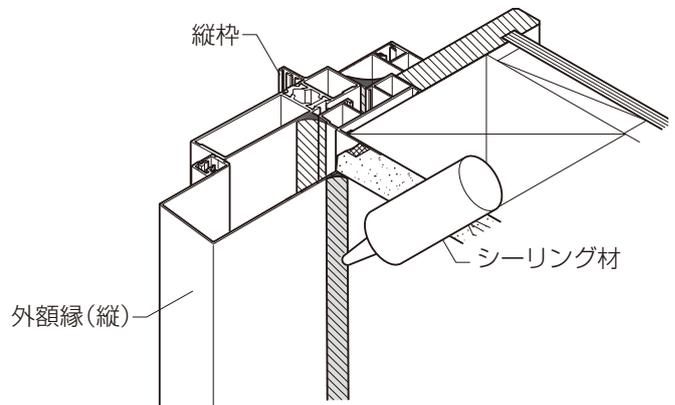
雨仕舞いのため、外周部（上側および両脇）にシーリング材を充てんします。

※下枠部・外額縁下部については、全面シーリングをせずに、両端部から水が抜けるようすき間を確保してください。

▲ 注意

●外壁工事を伴わない取付けの場合は、指定の個所にシーリング材を充てんしてください。漏水の原因となります。

※外額縁周りのシーリング箇所については P50 を参照ください。

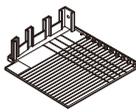
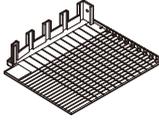
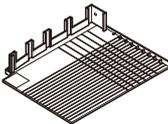


■外額縁 25・50・75・100・125・150（分割型）の取付け

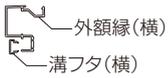
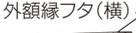
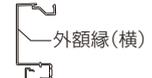
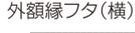
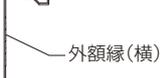
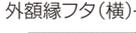
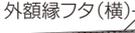
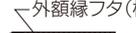
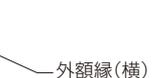
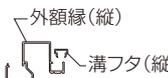
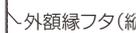
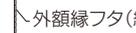
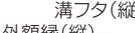
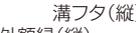
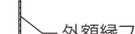
※取付けの図は、すべて外額縁 75 で説明しています。

※外額縁は本体を吊込んだ後に取付けてください。順序を間違えると取付けができなくなります。

■使用ねじ・部品一覧

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
額縁取付け用	額縁キャップ (外額縁25用)	額縁キャップ (外額縁50用)	額縁キャップ (外額縁75用)	額縁キャップ (外額縁100用)	額縁キャップ (外額縁125用)	額縁キャップ (外額縁150用)
						
なべドリルねじ φ4×13						

■部材一覧表

外額縁25	外額縁50	外額縁75	外額縁100	外額縁125	外額縁150
 	 	 	 	 	 
 	 	  	  	  	  

1 切詰め加工

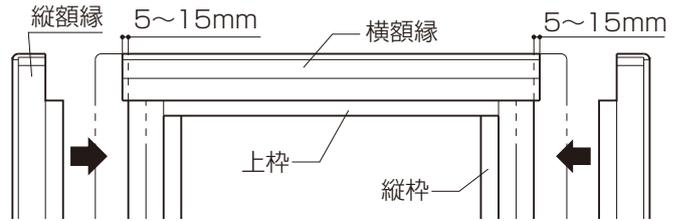
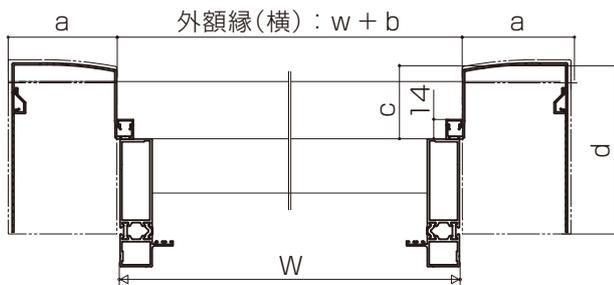
①外額縁（横）、溝フタ（横）、外額縁フタ（横）の切断寸法は、下表の切断寸法計算式より算出して切詰めてください。

■切詰寸法計算式

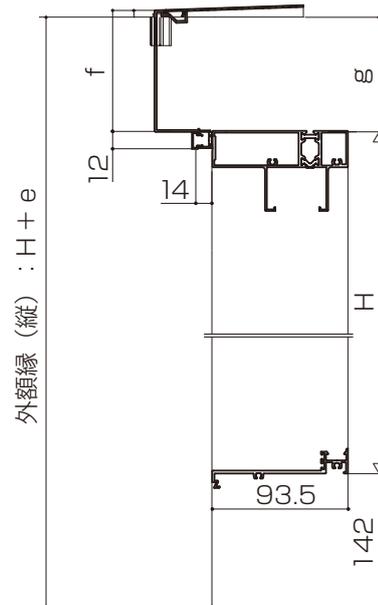
部材名	切断寸法計算式
外額縁 25・50・75・100・125・150（横）	$W + 20$
溝フタ	$W + 20$
外額縁フタ	$W + 20$

※外額縁（縦）、溝フタ（縦）、外額縁フタ（縦）は、現場の納まりに合わせて切詰めてください。
 ※外額縁（横）、溝フタ（横）、外額縁フタ（横）の切詰は、規格寸法の場合のみ必要です。
 ※出荷時は、ドア下枠下端より 142mm 出しています。

●横断面図



●縦断面図



■寸法表

	a	b	c	d	e	f	g
25	25	55	28	99	166.5	25	24.6
50	50	105	34	99	191.5	50	49.6
75	75	155	55	122.4	216.5	75	74.6
100	100	205	55	122.4	231.5	90	89.6
125	125	255	55	122.4	266.5	125	124.6
150	150	305	65	132.4	291.5	150	149.6

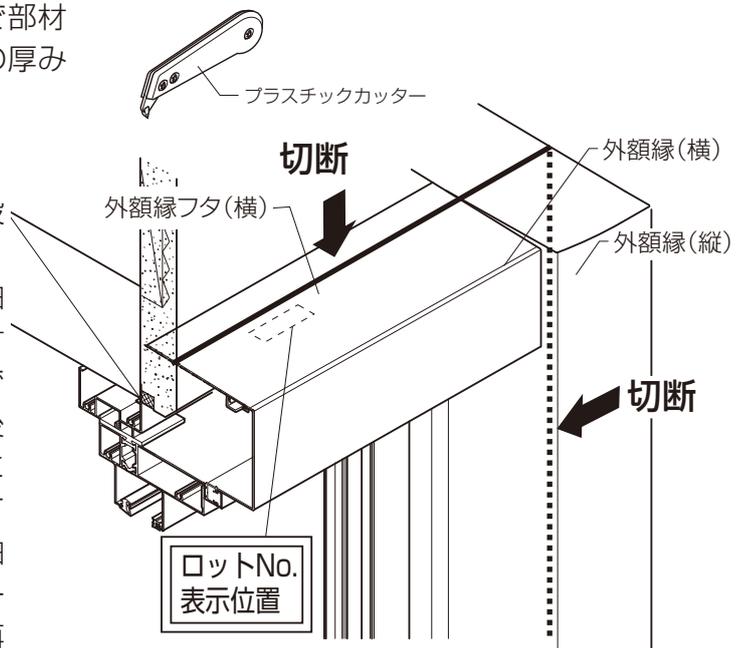
- ②外壁の納まりに合わせて、外額縁フタを必要に応じて切断します。
 ※外額縁フタを外額縁にかん合せた状態で納まりを確認してください。

【切断方法1】…カッター・ペンチ・プライヤーを使用する場合

- 外額縁の裏面にある溝から、納まりに合う位置の溝にカッター（プラスチックカッター等）で部材全長に溝を切込みます。この時アルミ型材の厚みを6割以上切込んでください。

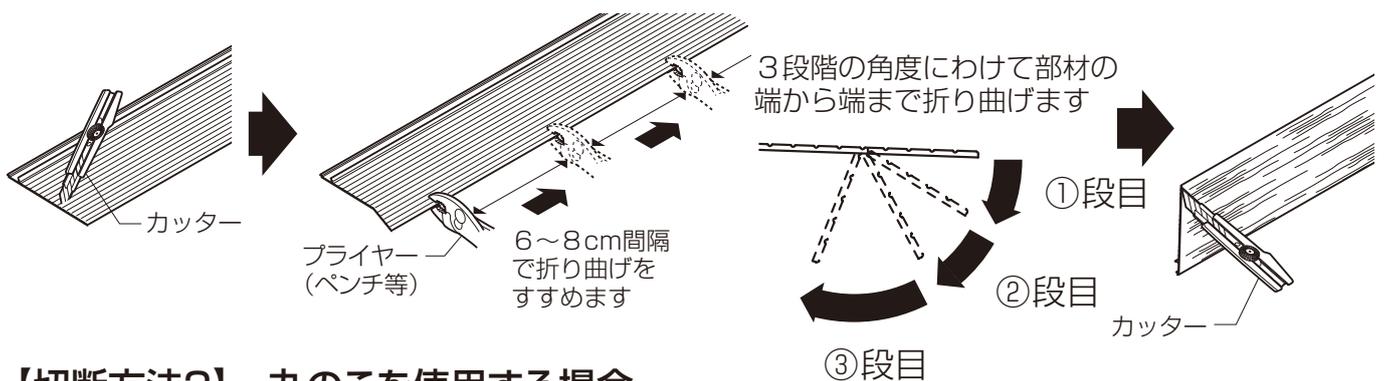


- プライヤー（ペンチ等）で下図のように3段階の角度にわけて折り曲げます。
 - ①段目の角度まで部材の端から端まで折り曲げます。同じように②段目の角度まで部材の端から端まで折り曲げてから、③段目まで折り曲げて切離します。木目色の場合、最後に木目シート1枚でつながっている状態になってからカッターで木目シートを切離してください。または、②段目の角度まで折り曲げてから木目シート側（谷側）からカッターで切れ込みを入れ、シートを切離してから再度折り曲げて切離してください。



お願い

- ※無理に折り曲げたり、部分的に1度で折り曲げないでください。ひずみの発生や、木目色の場合木目シートがはがれる原因になります。折り曲げががたい場合はもう一度カッター等で溝を深く切込みなおしてください。
- ※サンダー等、熱を発する刃物で切断しないでください。木目シートやアルミ表面が焼ける原因になります。
- ※切断後はバリ取りをしてください。



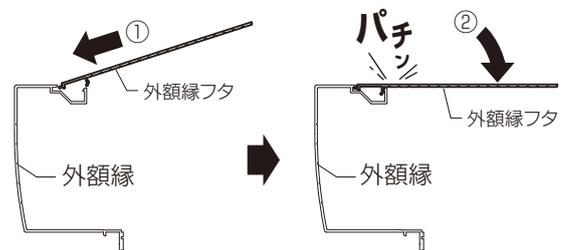
【切断方法2】…丸のこを使用する場合

- 納まりに合う位置に印を付け、丸のこで切断します。

2 外額縁と外額縁フタのかん合

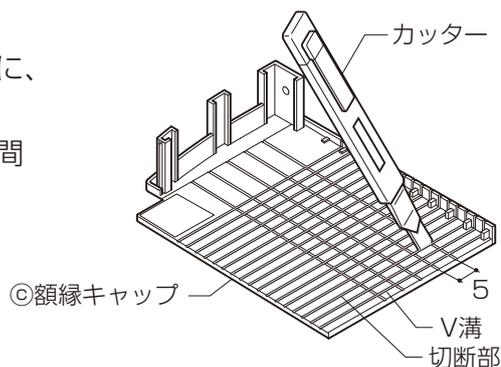
- ①外額縁フタの先端を外額縁の溝に突き当てます。
- ②外額縁フタのツメが、外額縁にパチンとかん合するまで押し下げます。

※かん合は、切断後に端部から行ってください。



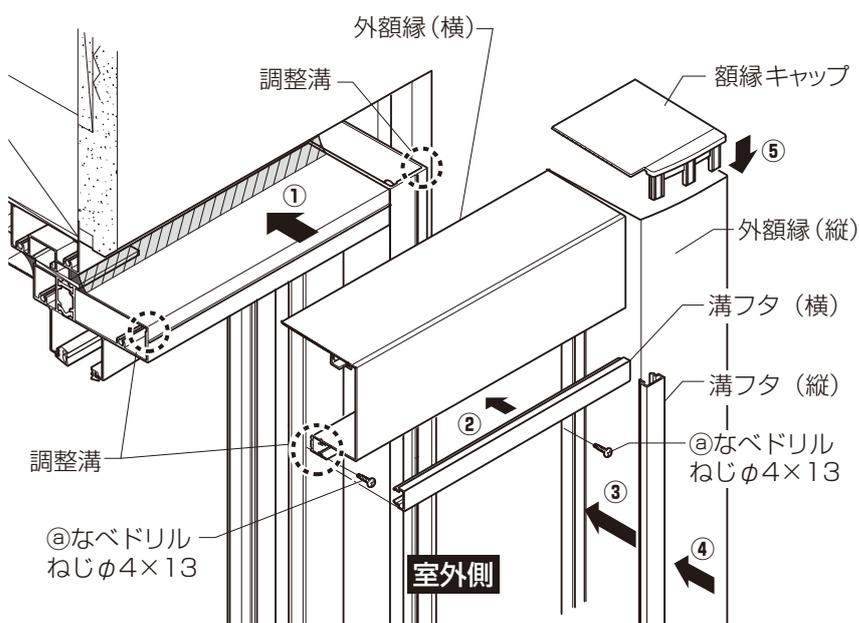
3 額縁キャップの切断

- 納まりに合わせて切詰めた外額縁と同じ位置にくるV溝に、
カッターで数回切れ目を入れ、カットしてください。
- ※額縁キャップには、カッターで切りやすいように5mm間
隔でV溝が入っています。

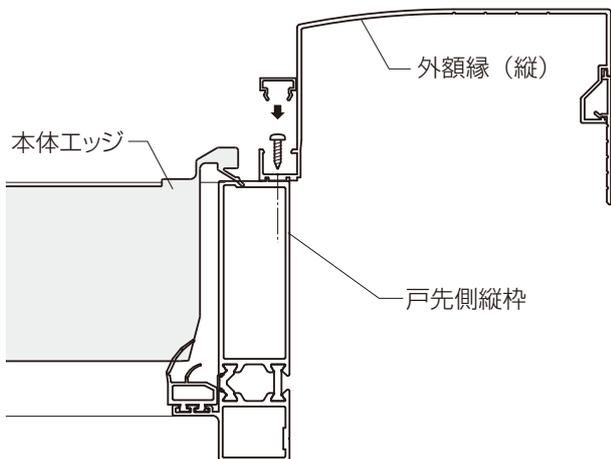


4 外額縁の取付け

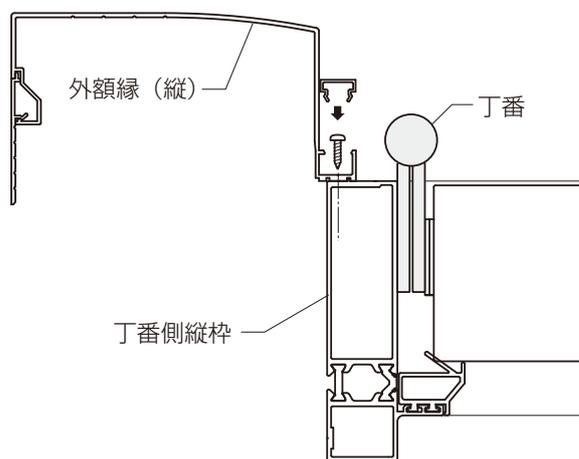
- ①外額縁(横)を調整溝に差込み、㊸なべドリルねじφ4×13で枠に取付けます。
 - ②溝フタ(横)を外額縁(横)に取付けます。
※溝フタは、完全にはめ込んだことを確認してください。
 - ③外額縁(縦)を調整溝に差込み、㊸なべドリルねじφ4×13で枠に取付けます。
 - ④溝フタ(縦)を外額縁(縦)に取付けます。
※溝フタは、完全にはめ込んだことを確認してください。
 - ⑤裏面の両面テープをはがして、額縁キャップを外額縁(縦)に取付けてください。
- ※外額縁(縦)と外額縁(横)の間にすき間がある場合は、位置を調整し、外額縁(横)を室外側に起こしながら、額縁キャップを張り付けてください。



※片開きの場合、戸先側縦枠に取付ける額縁は、本体エッジが当たらない位置に取付けてください。



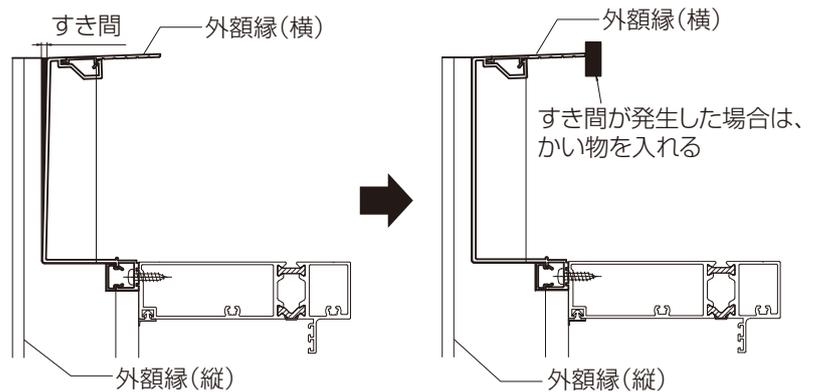
※丁番側に取付ける額縁は、丁番が当たらない位置に取付けてください。



■すき間発生時の対応

外額縁取付け時、現場の状況により外額縁（縦）の加工部にすき間があくことがあります。

すき間発生時は、外額縁（横）の後ろにかい物を入れて外額縁（横）をおこしてください。



※外周部のシーリング処理前に実施してください。

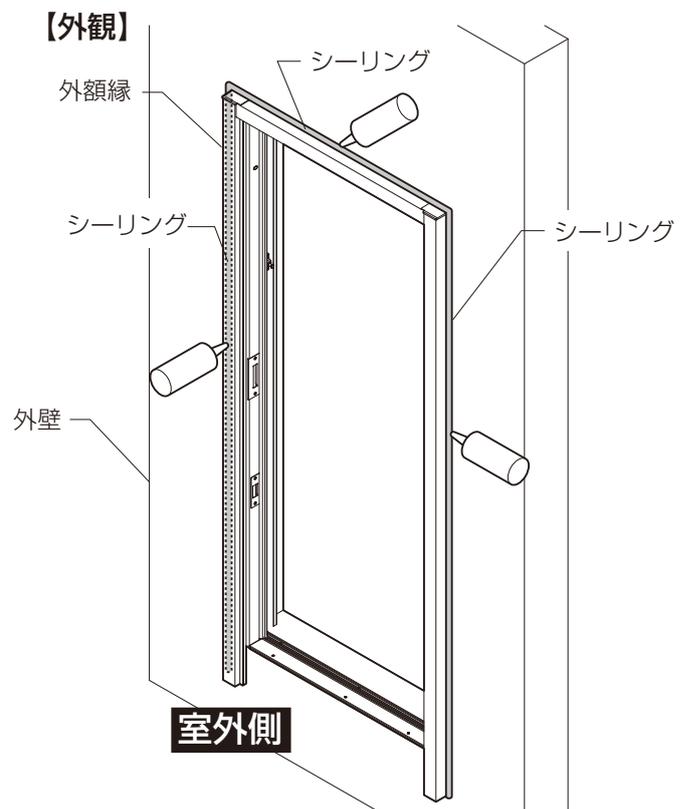
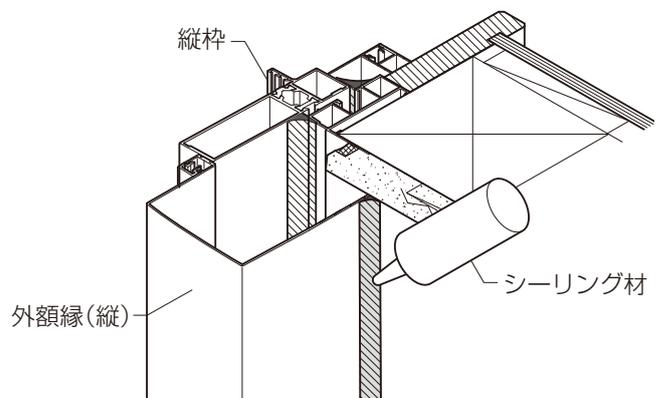
■外周部のシーリング処理

雨仕舞いのため、外周部（上側および両脇）にシーリング材を充てんします。

※下枠部・外額縁下部については、全面シーリングをせず、両端部から水が抜けるようすき間を確保してください。

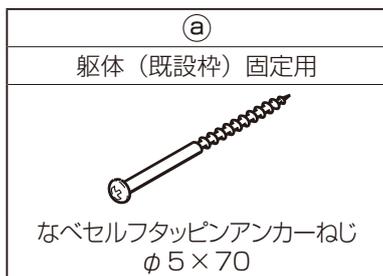
▲注意

- 外壁工事を伴わない取付けの場合は、指定の個所にシーリング材を充てんしてください。漏水の原因となります。



■下枠補強アングル [下枠用Lアングル](別途有償品) の取付け

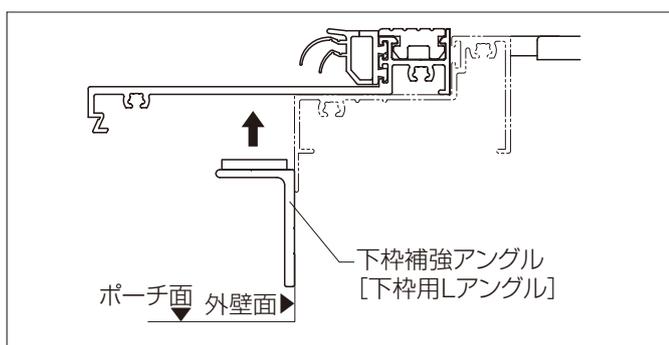
■使用ねじ一覧



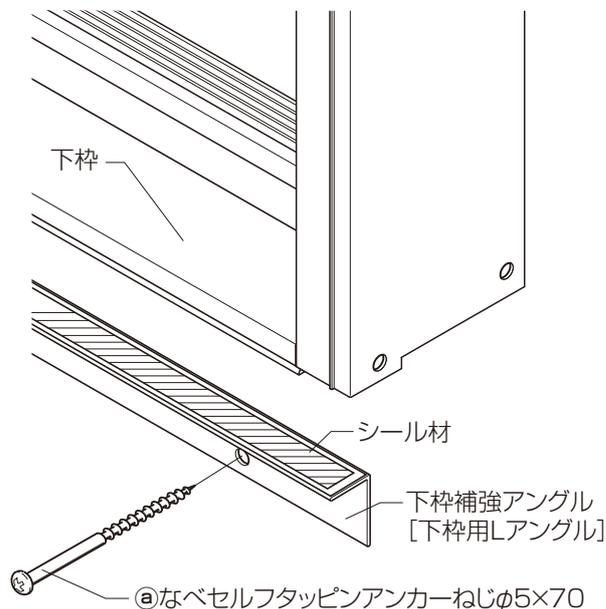
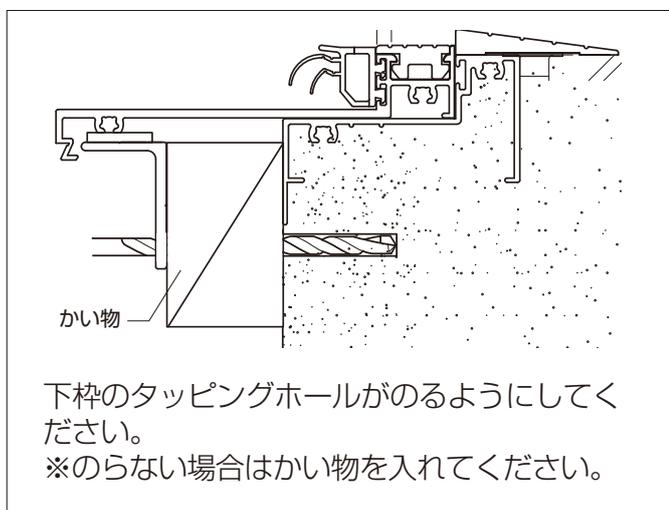
▲注意

●親子・両開き納まりで下枠とポーチ面の立上がりが大き場合は、下枠のツボ部分の強度確保のため、必ず下枠補強アングル [下枠用Lアングル] (別途有償品)を取付けてください。下枠のツボ部分が破損し、思わぬケガをするおそれがあります。

- ①枠を組立て躯体に取付けます。
- ②下枠補強アングル [下枠用Lアングル] の位置決めをします。



- ③躯体外壁面にドリルでφ4.3の穴をあけ、①なべセルフタッピンアンカーねじφ5×70で固定します。

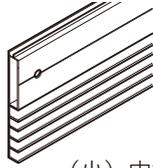
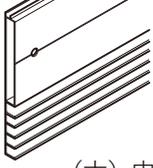


■下枠巾木（小）（別途有償品）・下枠巾木（大）（別途有償品）の取付け

お願い

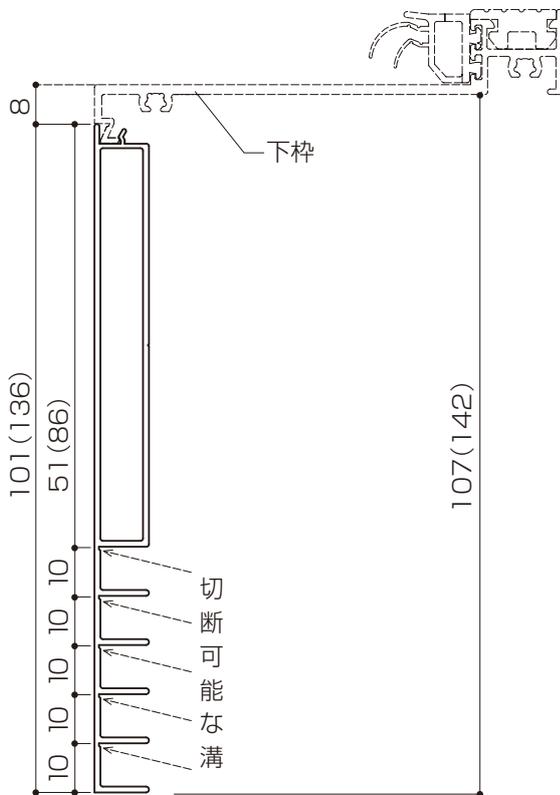
※巾木は、枠→本体吊込み→下枠補強アングル
[下枠用Lアングル]（別途有償品）→巾木
→外額縁の順番で取付けてください。順序を
間違えると取付けができなくなります。

■使用ねじ・部品一覧

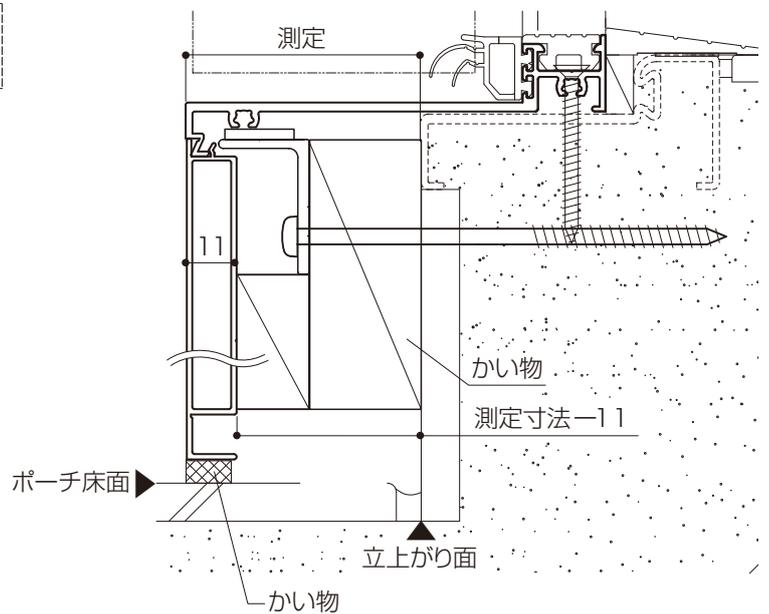
(a)	(b)	
 ナベセルフタッピング アンカーねじ φ5×70 2本	 (小) 巾木 1本	 (大) 巾木 1本

①ポーチ床面と、下枠との段差に合わせて、シーリング代を確保し巾木を溝にそって切断します。

②下枠面と立上がり面との距離を測定し、現場に合うかい物を準備してください。



※ () 内寸法は下枠巾木（大）

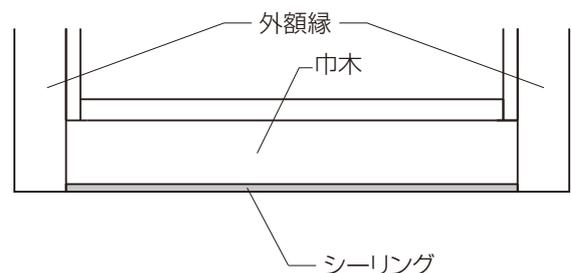
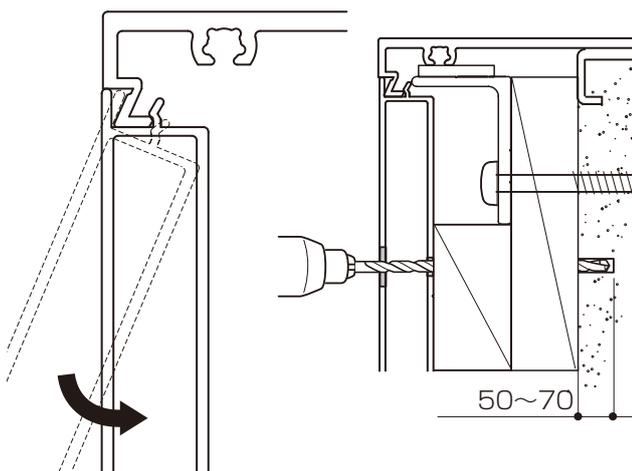


測定した寸法-11mmにした厚みのかい物を、巾木と同じ全長寸法で準備してください。
※ポーチ床面と下枠巾木下端の間にかい物を入れ、固定時に下枠巾木が下がらないようにしてください。

③かい物を仮固定し、巾木を下枠と合体させ、ドリルでφ4.3の下穴を開けます。

④なべセルフタッピングアンカーねじφ5×70で巾木を固定します。

⑤外額縁を取付け後、シーリングで止水処理を行ってください。

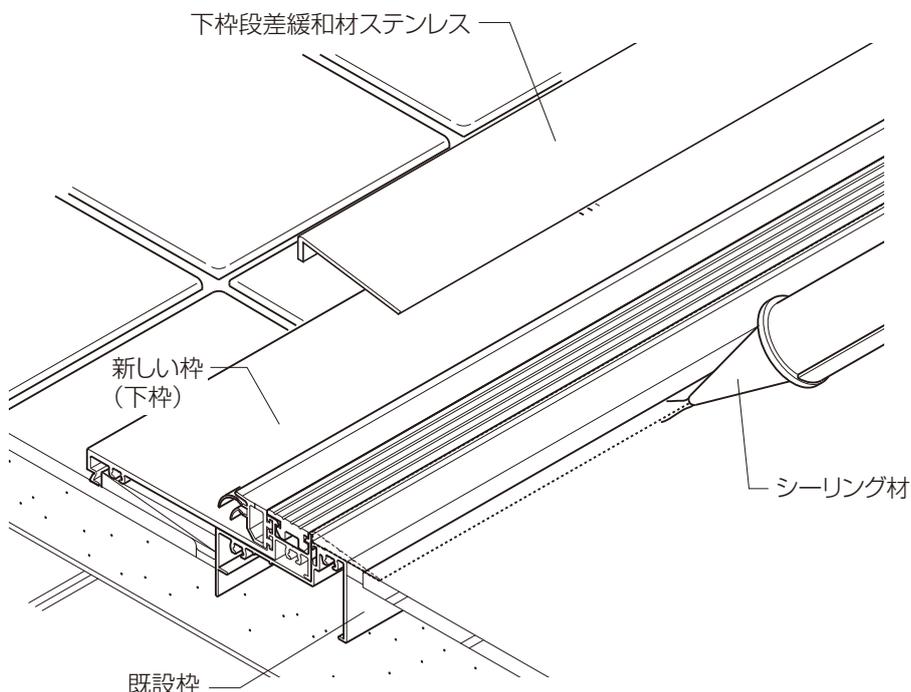


■下枠段差緩和材ステンレス（別途有償品）の取付け

お願い

※この部材は、新しい枠を取付けた際、室内側の土間の段差が大きい場合で使用してください。

- ①下枠段差緩和材ステンレスを現場の納まりに合わせて切詰めます。
 - ②既設枠と下枠の段差部分に下枠段差緩和材にあたる様にシーリングをします。
 - ③下枠段差緩和材ステンレスをシーリングの上に固定します。
- ※はみ出したシーリングは拭き取ってください。



■下枠化粧カバー材（別途有償品）の取付け

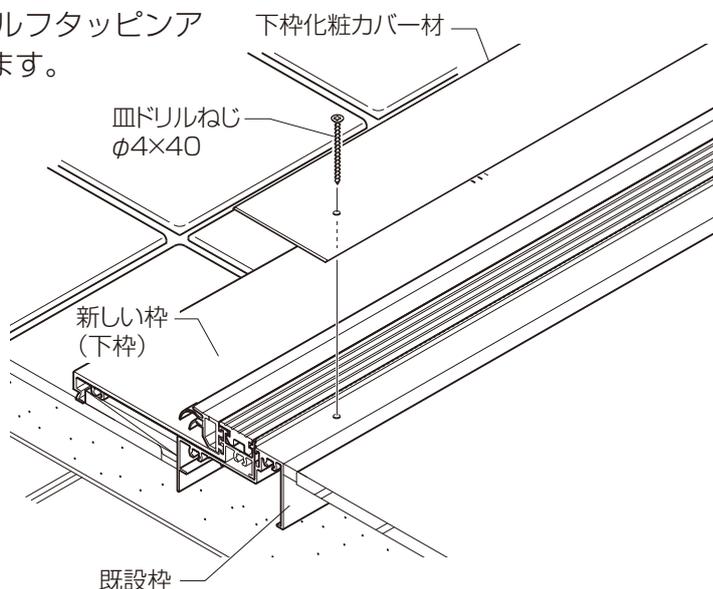
お願い

※この部材は、新しい枠を取付けた際、既設枠を隠す場合に使用してください。

- ①新しい枠に下枠化粧カバー材をつきあてて配置します。納まりに合わせて、下枠化粧カバー材を切断してください。
- ②下枠化粧カバー材の穴を使い、ねじの長さにあわせた深さで既設枠にφ 3.5の穴をあけます。
- ③㊸皿ドリルねじφ 4×40で取付けます。
コンクリートの場合は、㊹皿セルフタッピングアンカーねじφ 4×50で固定します。

■使用ねじ一覧

㊸	㊹
	
皿ドリルねじ φ 4×40	皿セルフタッピングアンカーねじ φ 4×50



■下柵段差緩和材（別途有償品）の取付け

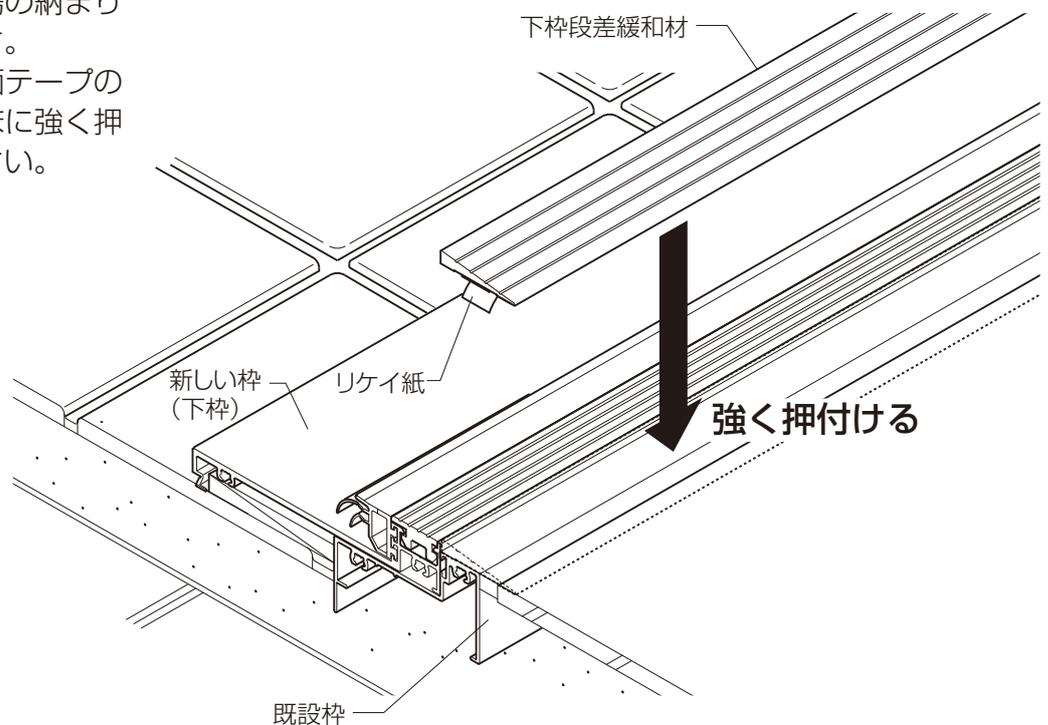
お願い

※この部材は、新しい柵を取付けた際、室内側の土間の段差が大きい場合に使用してください。

▲注意

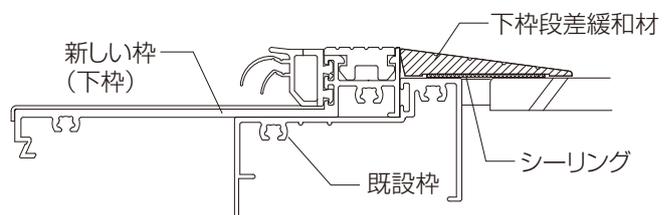
- 下柵段差緩和材の両面テープの接着力が低下し、下柵段差緩和材が外れ、思わぬケガをするおそれがありますので、下記事項をお守りください。
- ・張直しをしないでください。
- ・取付け前に床を必ず清掃し、汚れ（泥・砂）・ホコリ・油などを取ってください。
- ・床に強く押付け、必ず圧着してください。
- ・接着効果を確保するため、24時間放置してください。

- ①下柵段差緩和材を現場の納まりに合わせて切詰めます。
- ②下柵段差緩和材の両面テープのリケイ紙をはがし、床に強く押付けて圧着してください。



■新しい柵の下柵と床の段差が大きい時

- 段差部分にシーリングし、その上到下柵段差緩和材を固定してください。
- その際、下柵段差緩和材の両面テープのリケイ紙ははがしてください。

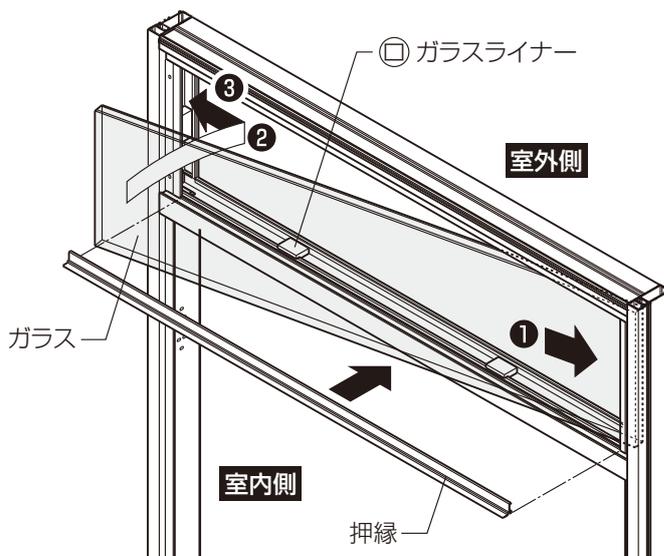
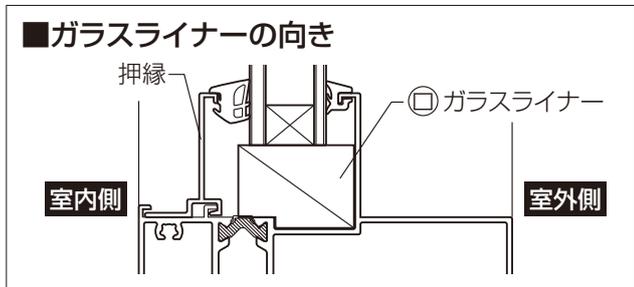


■ランマガラスの取付け

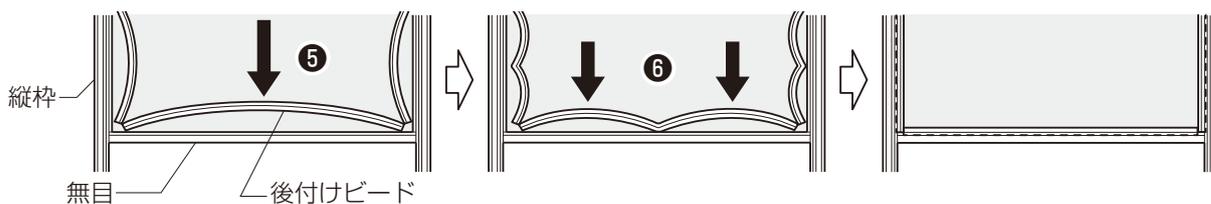
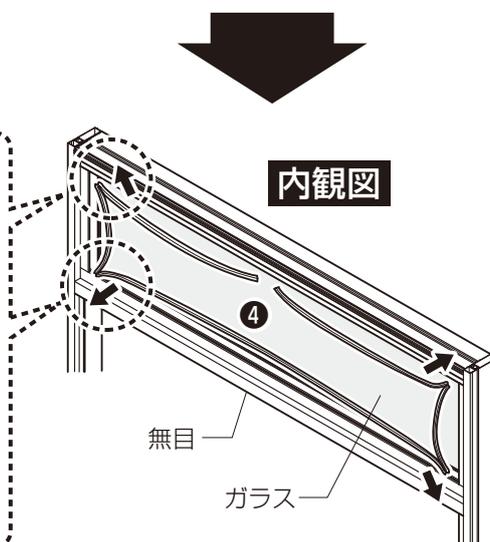
- ガラスをライナーのないほうからけんどんで入れ、ガラスを持上げてガラスライナーをガラスの下に置き、押縁を取付けます。

※ガラスライナーの向きを確認してください。

■ガラスライナーの向き



- 図の④のように余長を持たせて、四方に後付けビードをまわします。余長なく押し込むとビードが収縮し、外れや雨漏りの原因となります。
[後付けビードの余長の目安 1000mmあたり 30mm]
- 図の⑤⑥のように数箇所、均一にたわむように仮止めしてから押し込みます。

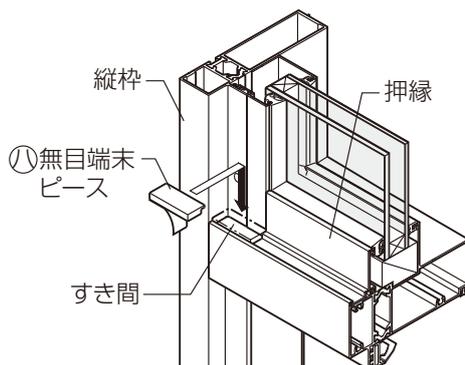


〈ビードの押し込みがきつい場合〉

後付けビードを 100 mm程度に切断して上・縦の3方に入れ、押縁とガラスのクリアランスを 確保してから押し込んでください。

〈無目末端ピースの取付け〉

※押縁を取付けた後、縦枠とのすき間に無目末端ピースを張付けてください。張付け面は、ゴミ・水分などをふき取ってください。



株式会社 LIXIL

商品についてのお問い合わせ・部品のご購入は、お客さま相談センターまで

受付時間/月～金 9:00～18:00 土・日・祝日 9:00～17:00(ゴールデンウィーク、夏期休暇、年末年始等を除く)

TEL. ☎ 0120-126-001

●旭トステム外装株式会社のサイディング材に関する商品相談は

旭トステム外装(株) サービスデスクナビダイヤル TEL.0570-001-117

修理のご依頼は、LIXIL修理受付センターまで

受付時間/月～金 9:00～18:00(祝日、年末年始、夏期休暇等を除く)

TEL. ☎ 0120-413-433 FAX. ☎ 0120-413-436

<https://www.lixil.co.jp/support/>

安全に関するご注意

ご使用の前に「取扱説明書」をよくご覧の上、正しくお使いください。また、取付設置工事は「取付設置説明書・施工説明書」に従ってください。いずれの場合も、取り扱いを誤ると事故や故障の原因となります。

個人情報保護について

当社は、当社取扱商品のユーザーさまおよび流通業者さま等の個人情報を商品納入にあたって取得し、将来にわたる品質保証、メンテナンス、その他当社の「個人情報保護方針」に記載の目的のために利用させていただきます。個人情報の取り扱いについての詳細は、当社オフィシャルサイトの「個人情報保護方針」をご覧ください。

●商品改良のため、予告なしに仕様の変更を行うことがありますのでご了承ください。

株式会社 LIXIL

会社や商品についての情報のご確認は、LIXIL オフィシャルサイトまで

<https://www.lixil.co.jp/>

※ショールームの所在地、カタログの閲覧・請求、図面・CAD データなどの各種情報は、上記オフィシャルサイトからご確認ください。

取説番号 MAM-780H	事業所コード AXU6	2024.11.11発行
---------------	-------------	--------------



* H 0 8 7 M A M *